

(案)

令和6年能登半島地震対応検証報告書



令和7年1月

射水市

<目次>

1. 検証の概要.....	1
1-1. 検証の目的.....	1
1-2. 検証項目.....	1
1-3. 地震対応検証委員会の設置.....	2
2. 令和6年能登半島地震の概要等.....	3
2-1. 地震の概要.....	3
2-2. 市内の被害状況.....	3
2-3. 市の対応等.....	6
3. 検証.....	11
3-1. 令和6年能登半島地震に関する市民緊急アンケート.....	11
3-2. 人流データの分析.....	21
3-3. 一般交通量(旅行速度)分析.....	26
3-4. 問題・課題の整理.....	32
4. 見直しの方向性等.....	35
4-1. 検証項目①住民の避難行動.....	35
4-2. 検証項目②避難所開設・運営.....	39
4-3. 検証項目③災害対策本部の運営.....	50
4-4. 検証項目④関係機関との連携・受援体制.....	54

参考資料

1. 検証の概要

1-1. 検証の目的

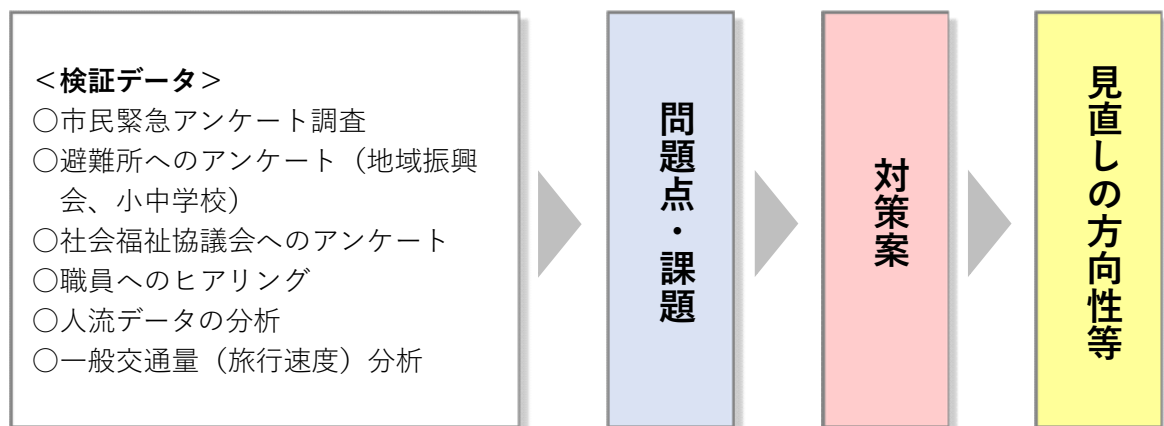
令和6年能登半島地震における、射水市災害対策本部の運営等の問題点や課題及び住民の避難行動の特徴等を整理し、今後の改善策の方向性を整理することを目的とする。

1-2. 検証項目

令和6年能登半島地震に関するアンケート調査や人流データ分析等を実施し、検証項目を以下のとおり設定した。これにより、市民の避難行動の実態等を把握し、問題点や課題等を整理した上で、対策案を取りまとめ、地域防災計画や避難所開設・運営マニュアル等の見直しの方向性を整理した。

検証項目	主な検証内容
①住民の避難行動	・避難行動の人流分析、避難時の道路渋滞 等
②避難所開設・運営	・鍵の解錠、避難所の運営、要配慮者への対応 等
③災害対策本部の運営	・対策本部の体制、情報発信 等
④関係機関との連携、受援体制	・関係機関との情報共有、受援体制（応援団体、協定先、災害ボランティアの受入） 等

検証の進め方



1-3. 地震対応検証委員会の設置

令和6年能登半島地震で顕在化した住民避難等に関する、課題・問題点について整理・検証し、射水市地域防災計画や各種マニュアル等に反映することにより防災体制の強化充実を図るため、令和6年能登半島地震対応検証委員会を設置した。

(1) 検証委員会

回 数	開催日時	議 事
第1回	令和6年7月29日(月)	(1)令和6年能登半島地震の概要 (2)市内の被害状況 (3)市の対応等 (4)検証
第2回	令和6年9月26日(木)	能登半島地震の課題・対策案の整理について
第3回	令和6年11月22日(金)	計画・マニュアル等の見直しの方向性について
第4回	令和7年1月31日(金)	令和6年能登半島地震対応検証報告書について

(2) 検証委員・オブザーバー

<検証委員>

	区 分	機関・団体名	役職名	委員名
1	学識経験者	富山大学	教授	大西 宏治
2		富山県立大学	教授	呉 修一
3		富山福祉短期大学	学科長	宮嶋 潔
4		富山情報ビジネス専門学校	学科長	三宅 可倫
5	住民代表	射水市地域振興会連合会	会長	宮田 雅人
6		いみず女性ネットワーク	会長	沖 和美
7	防災士	射水市防災士連絡協議会		芹澤 宏司
8	関係機関	射水ケーブルネットワーク株式会社	執行役員 制作部長	矢野 潤
9		射水市内老人福祉施設長会	施設長	北村 愛
10		社会福祉法人射水市社会福祉協議会	課長	野田 智

<オブザーバー>

1	オブザーバー	富山県防災・危機管理課	課長	熊本 誠
2		富山地方気象台	調査官	高橋 英則
3		射水ケーブルネットワーク株式会社	主任	杉本 桃香

2. 令和6年能登半島地震の概要等

2-1. 地震の概要

令和6年1月1日16時10分、能登半島沖を震源とする最大震度7(マグニチュード7.6)の地震が発生し、射水市で震度5強を観測した。また、同日16時12分には、石川県能登地方に大津波警報が、富山県においては津波警報が発表された。

令和6年能登半島地震の概要

発生時刻	令和6年1月1日 16時10分
震源地	石川県能登地方
地震の規模	マグニチュード7.6(最大震度7石川県輪島市、志賀町)
県内震度	震度5強:富山市、高岡市、氷見市、小矢部市、南砺市、 <u>射水市</u> 、舟橋村 震度5弱:滑川市、黒部市、砺波市、上市町、立山町、朝日町 震度4 :魚津市、入善町

津波の観測状況

日時		状況
令和6年1月1日	16時12分	津波警報発表
	16時13分	富山市検潮所 第一波到達
	16時35分	富山市検潮所 最大波 79cm
		※気象庁現地調査で、海竜新町(サザン裏)で1.5メートルの遡上高を確認

2-2. 市内の被害状況

(1) 人的被害

人的被害は、重傷者4名、軽傷者3名の計7名であった。

人的被害

(令和7年1月1日現在)

人数	内訳	
負傷者7名	重傷者4名	40、60、80歳代・女性4名 灯籠が倒れて負傷3名、地震の揺れで壁に強打1名
	軽傷者3名	20歳代・男性1名、70歳代・女性2名

(2) 住家被害

住家被害は、全壊が14件、大規模半壊、中規模半壊がそれぞれ12件、半壊、準半壊が合わせて123件であった。

住家被害

(令和7年1月1日時点)

区 分	損壊割合	罹災証明書交付件数
全壊	50%以上	14件
大規模半壊	40%以上 50%未満	12件
中規模半壊	30%以上 40%未満	12件
半壊	20%以上 30%未満	40件
準半壊	10%以上 20%未満	83件
準半壊に至らない(一部損壊)	10%未満	3,241件
合計		3,402件

(3) インフラ関係等

インフラ関係等の被害は、断水件数が211件、道路の通行止めや液状化、陥没等が合わせて96箇所のほか、下水道施設でも被害があった。

インフラ関係等被害

(令和7年1月1日時点)

区分	件数・箇所
断水件数	211件 (1月3日に解消)
道路通行止め	20箇所 (うち1箇所 実施中、他は解除済み)
道路の液状化	30箇所 (全て通行可能)
道路陥没等	46箇所 (全て通行可能)
下水道施設	処理場5箇所、管渠 14,191m 雨水ポンプ場1箇所(順次対応中)

道路被害状況 (港町地内)



公道本管修繕 (港町地内)



(4) 避難所の開設状況・避難者数

指定避難所(一次避難所)は58施設が開設し、指定緊急避難場所(指定避難所以外)・津波避難ビルは8施設が開設した。また、避難所以外の施設への避難も合わせると、約12,850人が避難した。

避難所の開設状況・避難者数

区 分	避難所開設施設数／ 受入施設数	最大避難者数
指定避難所(一次避難所)	58／73	約7,400人
指定緊急避難場所(指定避難所以外)・津波避難ビル	8／19	約1,250人
上記以外の施設 ※市として指定していない施設 (市役所、市民病院、布目庁舎、警察署、スーパーホテル、コストコ、特養太閤の杜、エスポワールこすぎ等)	10	約4,200人
合計	76	約12,850人

発災直後の庁舎・避難所(新湊中学校)の様子



福祉避難所の開設状況

日 時		状 況
1月2日	10:30	福祉避難所 開設 特別養護老人ホーム 射水万葉苑 1か所 避難者1人(要介護高齢者)
1月3日	14:05	福祉避難所 閉鎖(避難者帰宅により)

9

(1) 庁内 72 時間行動の取りまとめ

経過	1月1日		1月2日						1月3日						1月4日				
	発災	4時間	8時間	12時間	16時間	20時間	24時間	28時間	32時間	36時間	40時間	44時間	48時間	52時間	56時間	60時間	64時間	68時間	72時間
対策本部	災害対策本部設置																		
	・1次避難所開設指示 ・市民の安全確保、被害情報の把握 ・職員の安否確認及び参集状況の把握 ・避難者数の確認						・公共施設・ライフラインの被害・対応状況確認 ・避難所の状況、提供物資の確認 ・災害ゴミの処理 ・被災建築物応急危険度判定他						学校始業に係る施設の被害状況の収集						
情報発信	報道機関への被害状況、被災状況の発表																		
	避難所の開設・閉鎖をホームページ、市LINE公式アカウントで発信																		
避難所開設・運営・安否確認	災害専用ページでの情報発信（被災者支援等）																		
	避難所開設指示・避難者受け入れ																		
市民の安全・生活確保等	・避難者数の確認 ・避難所開設運営における対応																		
	配布物資の必要数把握																		
市民の安全・生活確保等	避難所へ物資提供																		
	保健師・栄養士等で避難所の健康観察を実施																		
市民の安全・生活確保等	福祉施設被災状況・安否確認 福祉避難所開所（射水万葉苑）																		
	・市内障がい者入所施設・グループホーム、独居の障がい者 ・市社会福祉協議会に要支援者等																		
市民の安全・生活確保等	外国人への被害状況等確認・情報提供																		
	消防職員全員の招集・災害対応																		
市民の安全・生活確保等	河川・道路等の安全確認、上水道・下水道の応急対応																		
	・津波の河川遡上等について情報収集 ・高潮水門の操作（津波対応） ・市営住宅の被災状況、危険度の把握 ・上水道、浄水施設及び配水池の被害状況確認																		
市民の安全・生活確保等	災害ボランティアセンター開設（市社会福祉協議会）																		
	射水市災害義援金の募集受付について協議																		
市民の安全・生活確保等	公園緑地施設の被災状況の把握																		
	上水道断水対応																		
市民の安全・生活確保等	被災住宅の現況把握																		
	住宅応急危険度判定調査																		
市民の安全・生活確保等	災害廃棄物仮置場の設置検討、決定																		
	倒壊ブロック塀等収集受付																		
市民の安全・生活確保等	災害廃棄物仮置場設置受入																		
	コミュニティバス運休																		

(2) 災害対策本部会議等の開催状況

① 災害対策本部会議の開催状況

1月1日に災害対策本部を設置してから、2月1日に被災者支援・災害復興本部に移行するまでに、計17回の災害対策本部会議を開催した。

災害対策本部会議の開催状況

日 時		内 容
1月1日	17:30	市民の安全確保、被害情報の把握
	22:30	被害情報の把握、物資提供他
1月2日	10:00	被害・対応状況、避難所の状況他
	18:00	被害・対応状況、避難所の状況他
1月3日	13:00	被害・対応状況、避難所の状況、災害ゴミの処理、被災建築物応急危険度判定他
1月4日	11:00	被害・対応状況、避難所の状況、罹災証明書等交付事務他
1月5日	15:00	被害・対応状況、避難所の状況、応急危険度判定、住宅相談他
1月6日	14:00	被害・対応状況、避難所の状況、罹災証明書等申請受付、市営住宅の一時提供他
1月7日	14:00	被害・対応状況、避難所の状況、罹災証明書等申請受付、他自治体からの人的支援、石川県から避難者他
1月8日	14:00	被害・対応状況、避難所の状況、罹災証明書等申請受付、他自治体からの人的支援他
1月9日	14:00	被害・対応状況、避難所の状況、罹災証明書等申請受付他 (県危機管理局からリエゾン1名同席)
1月10日	14:30	被害・対応状況、罹災証明書等申請受付、災害義援金受付、石川県への派遣他(県危機管理局からリエゾン1名同席)
1月11日	14:30	被害・対応状況、罹災証明書等申請受付、他自治体からの応援、各種支援制度他(対口支援で派遣された青森県職員2名同席)
1月12日	17:30	被害・対応状況、罹災証明書等申請受付、他自治体からの応援他
1月15日	13:30	被害・対応状況、罹災証明書等申請受付、ふるさと納税の状況他
1月17日	13:30	被害・対応状況、罹災証明書等申請受付、石川県からの避難者他 (対口支援で派遣された青森県職員2名同席)
1月19日	16:00	被害・対応状況、罹災証明書等申請受付、各支援制度他 (対口支援で派遣された青森県職員2名同席)
2月1日		災害対策本部から被災者支援・災害復興本部に移行

② 被災者支援・災害復興本部会議の開催状況

2月1日に被災者支援・災害復興本部に移行してから、被災者支援・災害復興本部会議を随時開催しています。

被災者支援・災害復興本部会議の開催状況

日 時		内 容
2月 1日	9:00	第1回本部会議 ・被害・対応状況 ・被災家屋の公費解体
2月 9日	15:30	第2回本部会議 ・被害・対応状況 ・下水道施設復旧計画 ・見舞金・支援金等の支給事務 ・道路等の復旧スケジュール ・被災家屋の公費解体
2月16日	10:30	第3回本部会議 ・被害・対応状況 ・災害復旧地域活動支援金 ・被害認定調査体制
2月27日	16:00	第4回本部会議 ・被害・対応状況 ・賃貸型応急住宅の提供 ・被害のあった償却資産の減免
4月 1日	10:30	第5回本部会議 ・被害・対応状況 ・復旧・復興ロードマップ（4/12 策定）
4月26日	10:00	第6回本部会議 ・被害・対応状況 ・土質調査の実施（5月1日新湊地域） ・災害復興事業説明会 （5月12日新湊地域 5月13日放生津地域 5月23日浅井報徳地域）
8月20日	10:00	第7回本部会議 ・被害・対応状況 ・災害復興状況説明会（8月25日放生津地域 8月27日新湊地域）
11月 1日	10:00	第8回本部会議 ・被害・対応状況 ・液状化対策土質追加調査 ・下水道の災害復旧状況
11月21日	10:00	第9回本部会議 ・被害・対応状況 ・Digi-PoC TOYAMA(デジポックとやま)実証実験
1月 8日	10:00	第10回本部会議 ・被害・対応状況 ・復旧・復興ロードマップ更新（1/1 更新）

※被災者支援・災害復興本部会議については、引き続き随時開催予定

被害状況の確認（総務課内）



被災建築物応急危険度判定の様子



(3) 応援職員の受入

総務省の「応急対策職員派遣制度(対口支援)」を活用し、青森県及び26市町村から職員の派遣(63名)を受け、住家の被害認定調査業務や罹災証明発行業務にご尽力いただいた。また、本市との災害時応援協定を締結している長野県千曲市、東京都荒川区、愛知県稲沢市から36名、さらに、富山県及び県内9市町からも117名の職員派遣をいただいた。

中長期の応援職員派遣については、各市より8名の派遣を受けた。

派遣の受入

業務内容	支援団体	派遣人数
住家の被害認定調査業務 罹災証明発行業務	青森県及び同県26市町村 (総務省の「応急対策職員派遣制度(対口支援)」)	63名
	災害時応援協定自治体 (長野県千曲市、東京都荒川区、愛知県稲沢市)	36名
	富山県及び県内9市町	117名

中長期派遣の受入

業務内容	支援団体	期間	派遣人数
公費解体	愛知県稲沢市	令和7年3月31日まで	3名
道路復旧	長野県千曲市、 愛知県稲沢市	令和7年3月31日まで	2名
下水復旧	愛知県田原市、長野市	令和7年3月31日まで	2名
農業施設の復旧	広島県三原市	令和7年3月31日まで	1名

(4) 災害ボランティアセンターの活動

災害ボランティアセンターは、1月3日に市社会福祉協議会が開設し、1月31日の閉所までボランティアの活動支援等を行った。

災害ボランティアセンターの動き

日	内 容
1月3日	市社会福祉協議会が開設
1月4日	災害ボランティア 受付・活動開始
1月31日	災害ボランティアセンター 閉鎖

災害ボランティアについて

活動内容	項 目	派遣人数
ブロック塀撤去、土のう運搬、家具の解体・運び出し等	ボランティア登録人数	392名(12団体含む)
	ボランティア活動件数	14件(新湊8、小杉4、大島2)
	ボランティア活動延べ人数	243名

(5) 消防の対応

発災直後から消防職員全員が招集し、以下のとおり災害対応を行った。

消防の対応

活動内容	内 容	件 数
油漏れ・ガス漏れ等出動	ホームタンク転倒等による油漏れ (ドローンによる油流出状況確認)	12件 (1件)
	ガス漏れ(LPガス及び都市ガス)	7件
	その他(電気引き込み線断線による通行障害等)	6件
地震関連救急出動	地震による灯ろう等の下敷き等	2件
	転倒等	1件
	避難所等での救急要請	6件

(6) 被災者支援・災害復興ロードマップ

生活再建に向けた公的支援や公共インフラ復旧等の取組の全体像とスケジュールを「見える化」し、被災者の不安の軽減や安心した暮らしのビジョン形成につなげるとともに、一日も早い復旧・復興を推進することを目的に、「令和6年能登半島地震に係る射水市被災者支援・災害復興ロードマップ(令和6年4月)」を策定した。

＜被災者支援・災害復興ロードマップ＞ （令和6年4月12日策定 令和7年1月1日更新）

I くらし・生活の再建

住宅の復旧や生活支援、被災者の心のケア等を支援

II 公共インフラ等の復旧

被災した道路や下水道施設、農林水産業施設、学校等の復旧のほか、橋りょうや上下水道施設の耐震化

III 地域産業の再生

中小企業や農林水産業、観光関連産業等の復興支援

IV 防災力の強化

自主防災組織の活動や地区防災計画の策定を支援

3. 検証

3-1. 令和6年能登半島地震に関する市民緊急アンケート

令和6年能登半島地震における、市民の避難行動を把握するため、緊急アンケート調査を実施した。

(1) 調査の概要

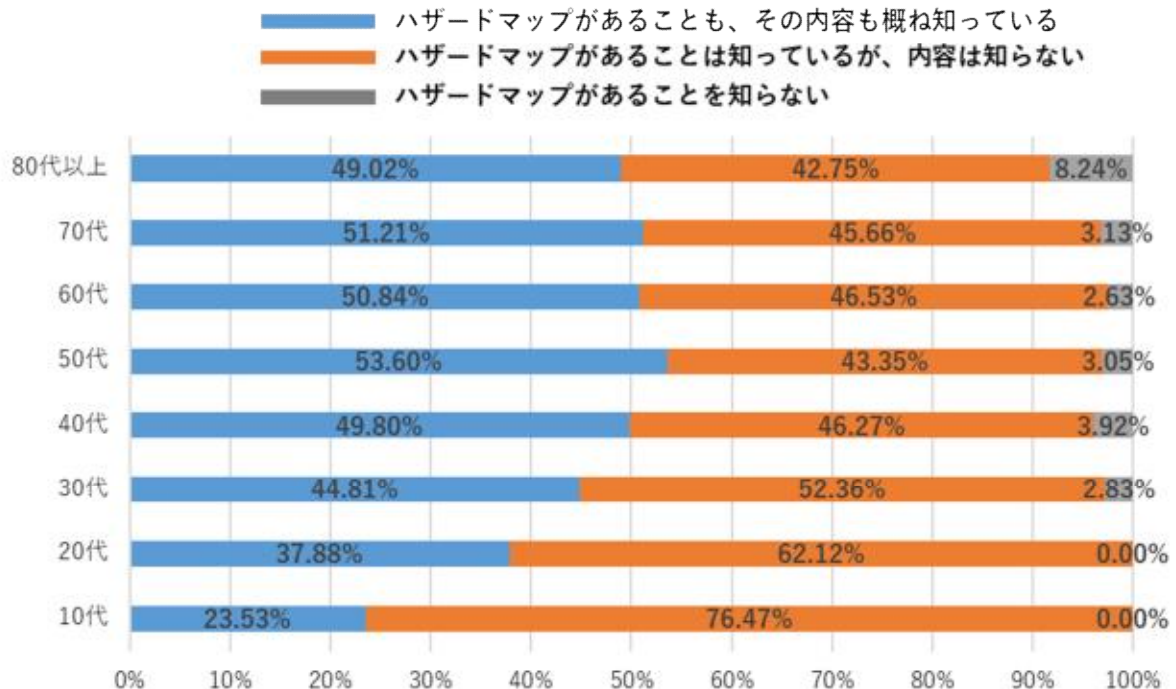
【調査対象】	全市民
【調査方法】	調査票全戸(32,855部)に配布し、郵送またはWEBによる回答とした
【調査期間】	令和6年3月
【回答数】	4,513票(郵送3,362票、WEB回答1,151票)
【回収率】	13.74%

(2) 主な調査結果

① 市民のハザードマップの理解度（単数回答）

- ・全ての年代の9割以上がハザードマップの存在を認知している。
- ・40歳以上の約半数はハザードマップの内容を理解している。
- ・若年層ほどハザードマップの内容を理解していない。

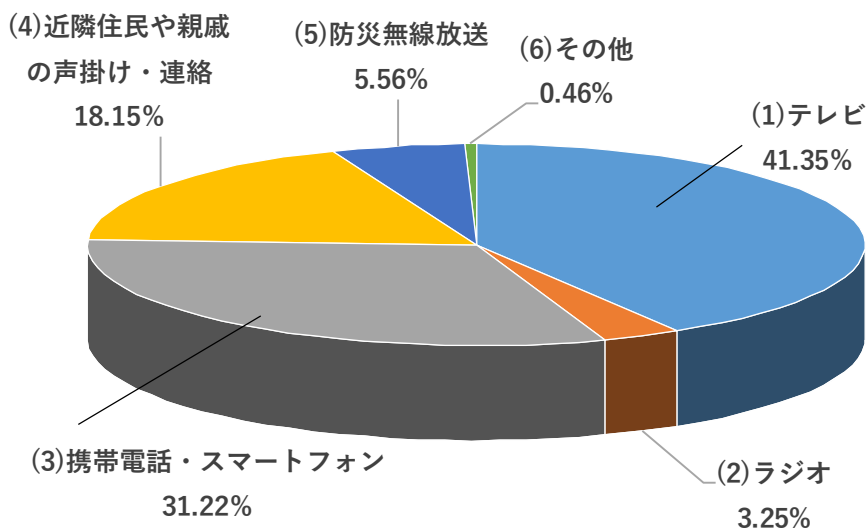
市民緊急アンケート：問2 市民のハザードマップの理解度（n=4,435）



② 津波警報の情報取得手段（複数回答）

・津波警報の情報取得手段は、テレビが約4割、携帯電話・スマートフォンが約3割で概ね全ての年代で同様の傾向であった。

市民緊急アンケート：問4 津波警報の情報取得手段（n=6,979）



市民緊急アンケート：問4 津波警報の情報取得手段 年代別集計（n=6,979）

年 代	回答数	割合	年 代	回答数	割合
10代			60代		
(1)テレビ	9	37.5%	(1)テレビ	620	40.9%
(2)ラジオ	2	8.3%	(2)ラジオ	40	2.6%
(3)携帯電話・スマートフォン	6	25.0%	(3)携帯電話・スマートフォン	514	33.9%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	6	25.0%	(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	248	16.4%
(5)防災無線放送	1	4.2%	(5)防災無線放送	85	5.6%
(6)その他	0	0.0%	(6)その他	8	0.5%
20代			70代		
(1)テレビ	37	38.9%	(1)テレビ	1,028	43.5%
(2)ラジオ	2	2.1%	(2)ラジオ	91	3.8%
(3)携帯電話・スマートフォン	21	22.1%	(3)携帯電話・スマートフォン	846	35.8%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	31	32.6%	(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	242	10.2%
(5)防災無線放送	4	4.2%	(5)防災無線放送	152	6.4%
(6)その他	0	0.0%	(6)その他	6	0.3%
30代			80代以上		
(1)テレビ	100	35.1%	(1)テレビ	408	47.6%
(2)ラジオ	1	0.4%	(2)ラジオ	51	5.9%
(3)携帯電話・スマートフォン	68	23.9%	(3)携帯電話・スマートフォン	237	27.6%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	104	36.5%	(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	107	12.5%
(5)防災無線放送	8	2.8%	(5)防災無線放送	52	6.1%
(6)その他	4	1.4%	(6)その他	3	0.3%
40代			年代空白		
(1)テレビ	263	35.5%	(1)テレビ	30	46.2%
(2)ラジオ	18	2.4%	(2)ラジオ	3	4.6%
(3)携帯電話・スマートフォン	176	23.8%	(3)携帯電話・スマートフォン	26	40.0%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	246	33.2%	(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	4	6.2%
(5)防災無線放送	33	4.5%	(5)防災無線放送	2	3.1%
(6)その他	5	0.7%	(6)その他	0	0.0%
50代			【合 計】		
(1)テレビ	391	37.9%	計(1)テレビ	2,886	41.4%
(2)ラジオ	19	1.8%	計(2)ラジオ	227	3.3%
(3)携帯電話・スマートフォン	285	27.6%	計(3)携帯電話・スマートフォン	2,179	31.2%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	279	27.1%	計(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	1,267	18.2%
(5)防災無線放送	51	4.9%	計(5)防災無線放送	388	5.6%
(6)その他	6	0.6%	計(6)その他	32	0.5%

< 地区別集計 >

- ・津波浸水想定エリア内外とも、テレビ、携帯電話・スマートフォンからの情報取得が高くなっている。
- ・防災無線放送では、七美が約3割と最も高くなっている。

市民緊急アンケート：問4 津波警報の情報取得手段 地区別集計（n=4,513）

		テレビ	ラジオ	携帯電話・スマートフォン	近隣住民や親戚の 声掛け・連絡	防災無線放送	その他
沿岸部西側	放生津(n=288)	60.4%	4.2%	45.8%	27.8%	13.9%	1.4%
	新湊(n=394)	60.9%	2.8%	49.2%	29.7%	8.9%	1.0%
	庄西(n=46)	60.9%	8.7%	56.5%	23.9%	19.6%	2.2%
沿岸部東側	堀岡(n=128)	64.1%	4.7%	46.1%	30.5%	18.0%	0.8%
	海老江(n=132)	66.7%	3.8%	48.5%	27.3%	10.6%	0.0%
	本江(n=81)	64.2%	12.3%	46.9%	25.9%	16.0%	1.2%
内陸部	七美(n=63)	61.9%	6.3%	50.8%	17.5%	28.6%	1.6%
	片口(n=183)	58.5%	5.5%	41.0%	35.0%	7.1%	1.6%
	下(n=130)	61.5%	3.1%	41.5%	30.0%	16.2%	0.0%
	作道(n=228)	64.9%	5.3%	53.5%	31.6%	9.6%	1.3%
	塚原(n=152)	67.8%	5.9%	61.2%	21.7%	4.6%	0.7%
	大江(n=93)	67.7%	9.7%	55.9%	22.6%	9.7%	0.0%
	大島(n=554)	67.0%	5.6%	46.8%	30.7%	5.2%	0.2%
	三ヶ(n=235)	54.9%	4.3%	46.8%	26.4%	3.8%	1.3%
	戸破(n=414)	60.9%	4.6%	41.1%	31.4%	6.8%	0.5%
	大門(n=191)	64.9%	4.2%	49.7%	30.9%	7.9%	0.0%
	二口(n=127)	67.7%	5.5%	45.7%	29.1%	3.9%	0.8%
	橋下条(n=104)	56.7%	6.7%	45.2%	37.5%	13.5%	0.0%
	太閤山(n=193)	73.1%	6.2%	51.3%	20.7%	3.6%	0.0%
	中太閤山(n=102)	71.6%	7.8%	57.8%	12.7%	2.0%	0.0%
	南太閤山(n=137)	67.2%	2.9%	48.9%	24.1%	5.1%	0.0%
	水戸田(n=56)	67.9%	3.6%	53.6%	30.4%	16.1%	0.0%
	浅井(n=102)	66.7%	2.9%	53.9%	24.5%	10.8%	2.0%
	黒河(n=116)	64.7%	0.9%	54.3%	25.9%	2.6%	0.9%
	池多(n=21)	57.1%	4.8%	42.9%	28.6%	9.5%	0.0%
	櫛田(n=78)	73.1%	5.1%	60.3%	16.7%	11.5%	0.0%
	金山(n=56)	66.1%	10.7%	37.5%	26.8%	10.7%	0.0%

津波浸水想定エリア内

③ 地震発生時の避難行動

- ・津波浸水想定エリア内の振興会では、地震発生時に何らかの避難行動をした割合が約7割以上となっている。
- ・津波浸水想定エリア以外の振興会は、「避難しなかった・できなかった」の割合が高くなっている。

市民緊急アンケート：問5 地震発生時の避難行動（n=4,327）

	振興会	何らかの避難行動をした。	避難しなかった ・できなかった
沿岸部 西側	放生津(n=258)	86.43%	13.57%
	新湊(n=371)	90.84%	9.16%
	庄西(n=40)	100.00%	0.00%
沿岸部 東側	堀岡(n=217)	92.62%	7.38%
	海老江(n=179)	92.13%	7.87%
	本江(n=122)	89.74%	10.26%
内陸部	七美(n=127)	93.33%	6.67%
	片口(n=60)	92.74%	7.26%
	下(n=78)	82.79%	17.21%
	作道(n=148)	70.97%	29.03%
	塚原(n=227)	67.57%	32.43%
	大江(n=404)	71.43%	28.57%
	大島(n=100)	44.57%	55.43%
	三ヶ(n=54)	37.44%	62.56%
	戸破(n=91)	42.57%	57.43%
	大門(n=112)	39.78%	60.22%
	二口(n=20)	22.58%	77.42%
	橋下条(n=187)	35.00%	65.00%
	太閤山(n=94)	20.32%	79.68%
	中太閤山(n=133)	13.83%	86.17%
	南太閤山(n=101)	12.78%	87.22%
	水戸田(n=76)	15.38%	84.62%
	浅井(n=52)	26.73%	73.27%
	黒河(n=124)	26.79%	73.21%
	池多(n=122)	20.00%	80.00%
	櫛田(n=186)	11.84%	88.16%
	金山(n=543)	16.67%	83.33%
	(空白)	54.46%	45.54%
	総 計	55.19%	44.81%

津波浸水想定エリア内

④ 避難した場所

- ・沿岸部西側（放生津、新湊、庄西）は避難場所へ避難した割合が高い。
- ・沿岸部東側（堀岡、海老江、本江）は沿岸部西側と比べて、避難場所以外（親戚、知人宅、市南部の内陸部など）に避難した割合が高い。
- ・内陸部（小杉、大門、大島地区等）は「避難しなかった・できなかった」と回答した割合が高い。
- ・作道や塚原など津波のリスクがない地区においても約6割が「避難した」と回答している。

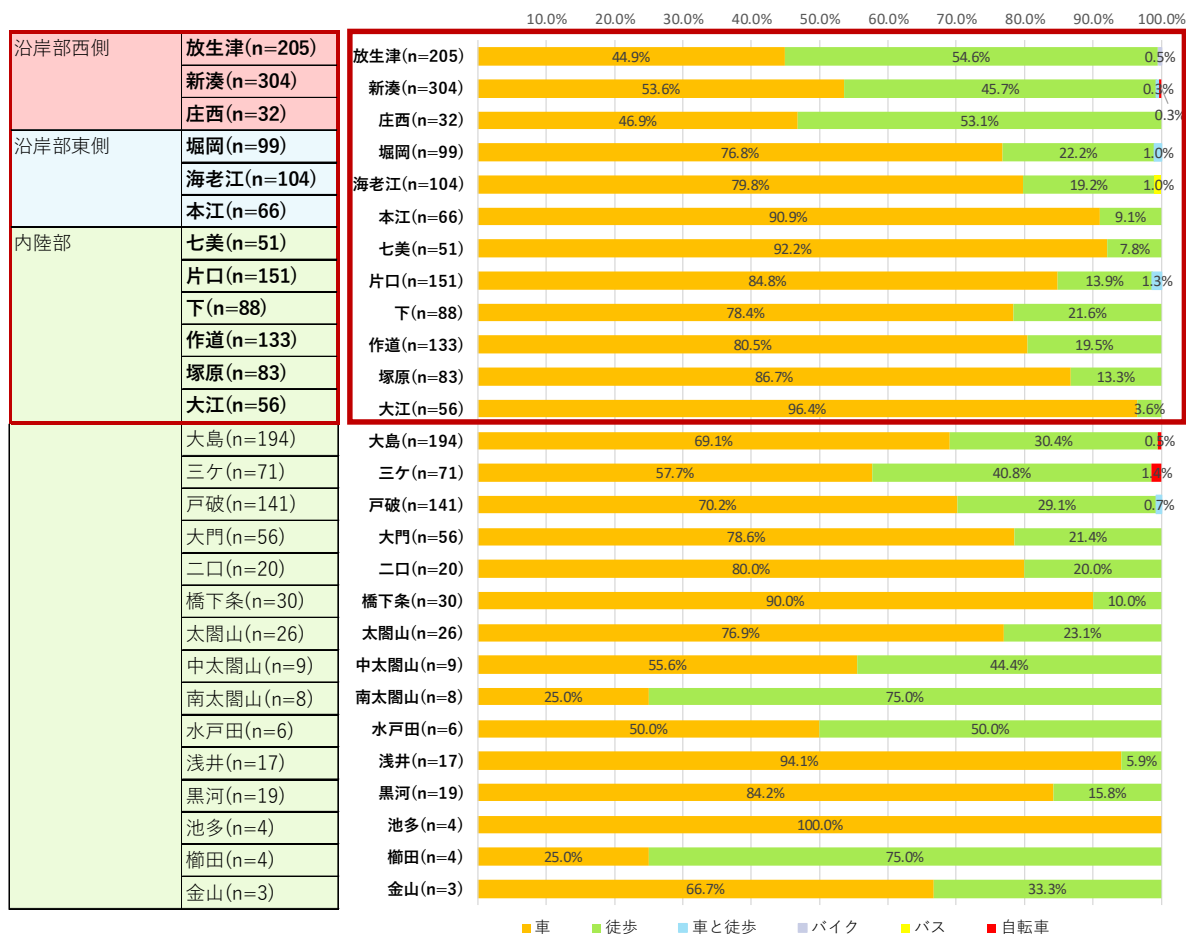
市民緊急アンケート：問5 避難した場所（n=4,327）

	振興会	(1)避難場所へ避難した	(2)避難場所以外に避難した（親戚、知人宅、市南部の内陸部など）	(3)自宅の2階（垂直避難）	(4)避難しなかった・できなかった
【沿岸部】 ↓ 【内陸部】	放生津	62.79%	20.54%	3.10%	13.57%
	新湊	64.15%	21.29%	5.39%	9.16%
	庄西	67.50%	27.50%	5.00%	0.00%
	堀岡	53.28%	36.07%	3.28%	7.38%
	海老江	49.61%	40.94%	1.57%	7.87%
	本江	37.18%	51.28%	1.28%	10.26%
	七美	46.67%	38.33%	8.33%	6.67%
	片口	42.46%	46.93%	3.35%	7.26%
	下	43.44%	33.61%	5.74%	17.21%
	作道	44.70%	19.35%	6.91%	29.03%
	塚原	38.51%	22.97%	6.08%	32.43%
	大江	35.16%	31.87%	4.40%	28.57%
	大島	29.10%	11.05%	4.42%	55.43%
	三ヶ	22.03%	10.57%	4.85%	62.56%
	戸破	23.76%	13.86%	4.95%	57.43%
	大門	23.66%	10.22%	5.91%	60.22%
	二口	12.90%	5.65%	4.03%	77.42%
	橋下条	25.00%	7.00%	3.00%	65.00%
	太閤山	11.23%	5.88%	3.21%	79.68%
	中太閤山	6.38%	4.26%	3.19%	86.17%
	南太閤山	8.27%	3.01%	1.50%	87.22%
	水戸田	3.85%	7.69%	3.85%	84.62%
	浅井	14.85%	7.92%	3.96%	73.27%
	黒河	11.61%	11.61%	3.57%	73.21%
	池多	10.00%	10.00%	0.00%	80.00%
柳田	3.95%	3.95%	3.95%	88.16%	
金山	9.26%	1.85%	5.56%	83.33%	
(空白)	27.72%	17.82%	8.91%	45.54%	
	総 計	32.86%	17.86%	4.46%	44.81%

⑤ 避難行動における移動手段

- ・ 沿岸部西側では、避難行動における移動手段は、車と徒歩がほぼ半数となっている。
- ・ 沿岸部東側、内陸部の津波浸水想定エリア内の振興会では、車の割合が高くなっている。
- ・ 津波浸水想定エリア外の振興会では車の割合が高くなっている。

市民緊急アンケート：問5 避難行動における移動手段（n=2,018）

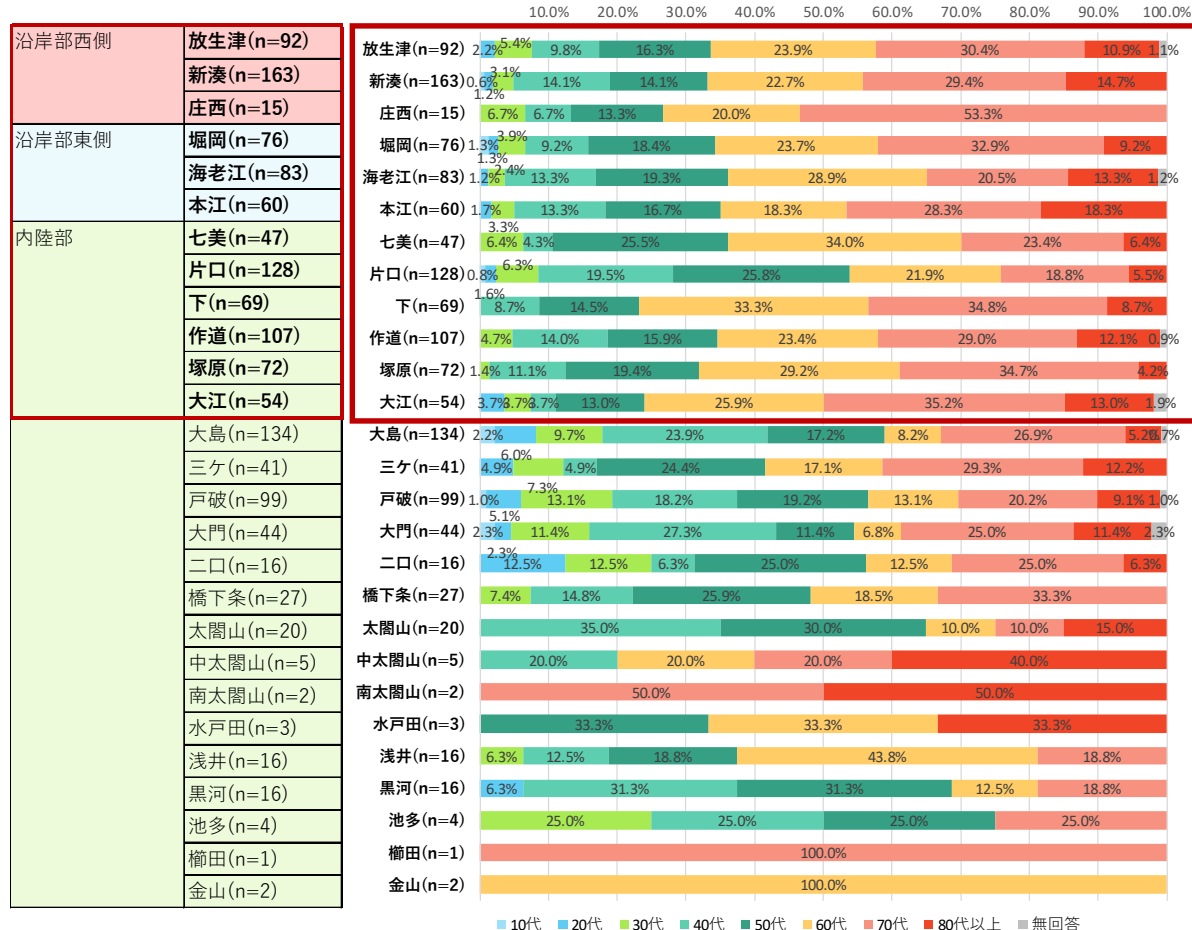


津波浸水想定エリア内

<年代別集計>

- ・津波浸水想定エリア内の振興会では、車で移動した割合は60代以上が高くなっている。
- ・津波浸水想定エリア以外の振興会では各年代が均衡している。

市民緊急アンケート：問5 避難行動における移動手段（車） 年代別集計（n=1,425）

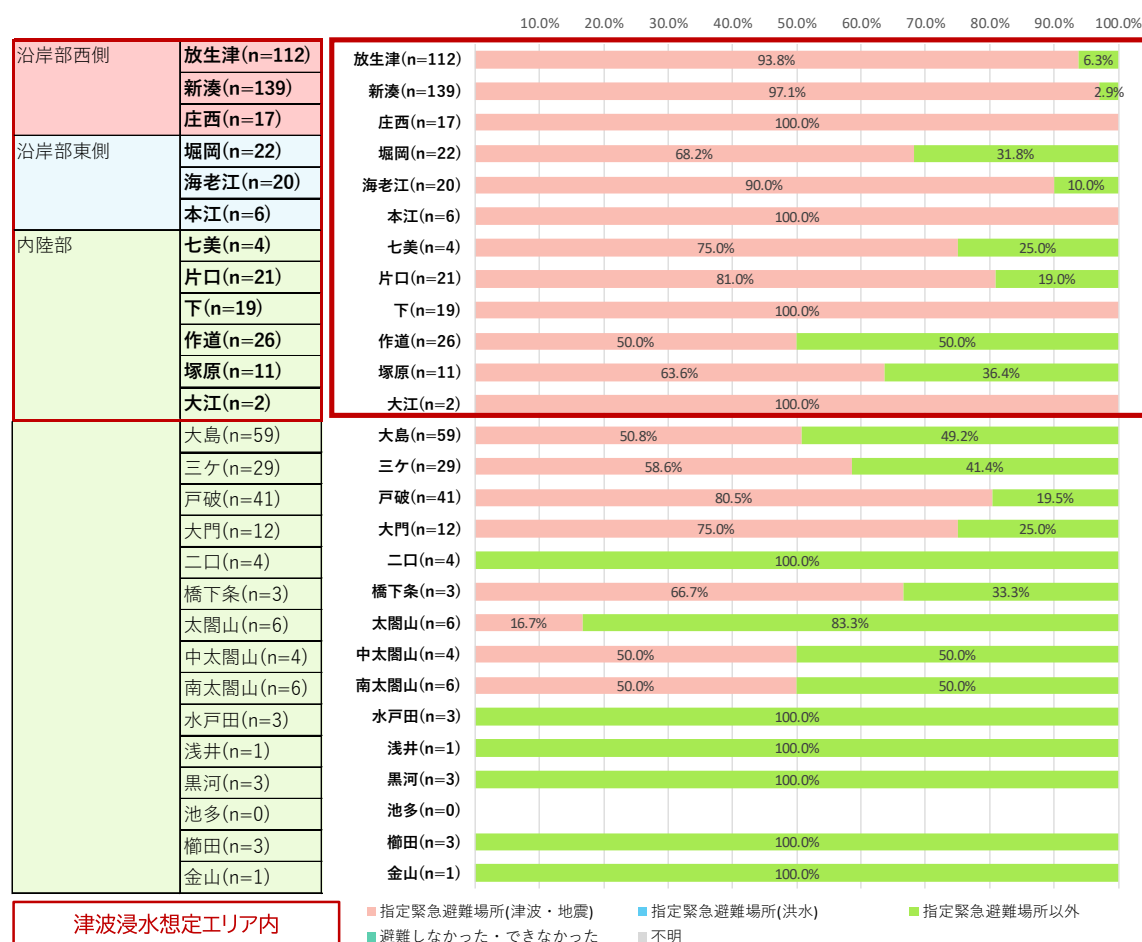


津波浸水想定エリア内

<避難先別集計：徒歩>

- ・津波浸水想定エリア内の振興会では、指定緊急避難場所（津波・地震）へ徒歩で移動した割合が高くなっている。
- ・津波浸水想定エリア外の振興会では大島、三ヶ、戸破、橋下条が指定緊急避難場所（津波・地震）の割合が高くなっている。

市民緊急アンケート：問5 避難行動における移動手段 避難先別集計（徒歩）（n=582）



<施設により以下のとおり分類>

※指定緊急避難場所（津波・地震）

指定緊急避難場所のうち、対象とする異常な現象に津波、地震のどちらかが含まれる場所

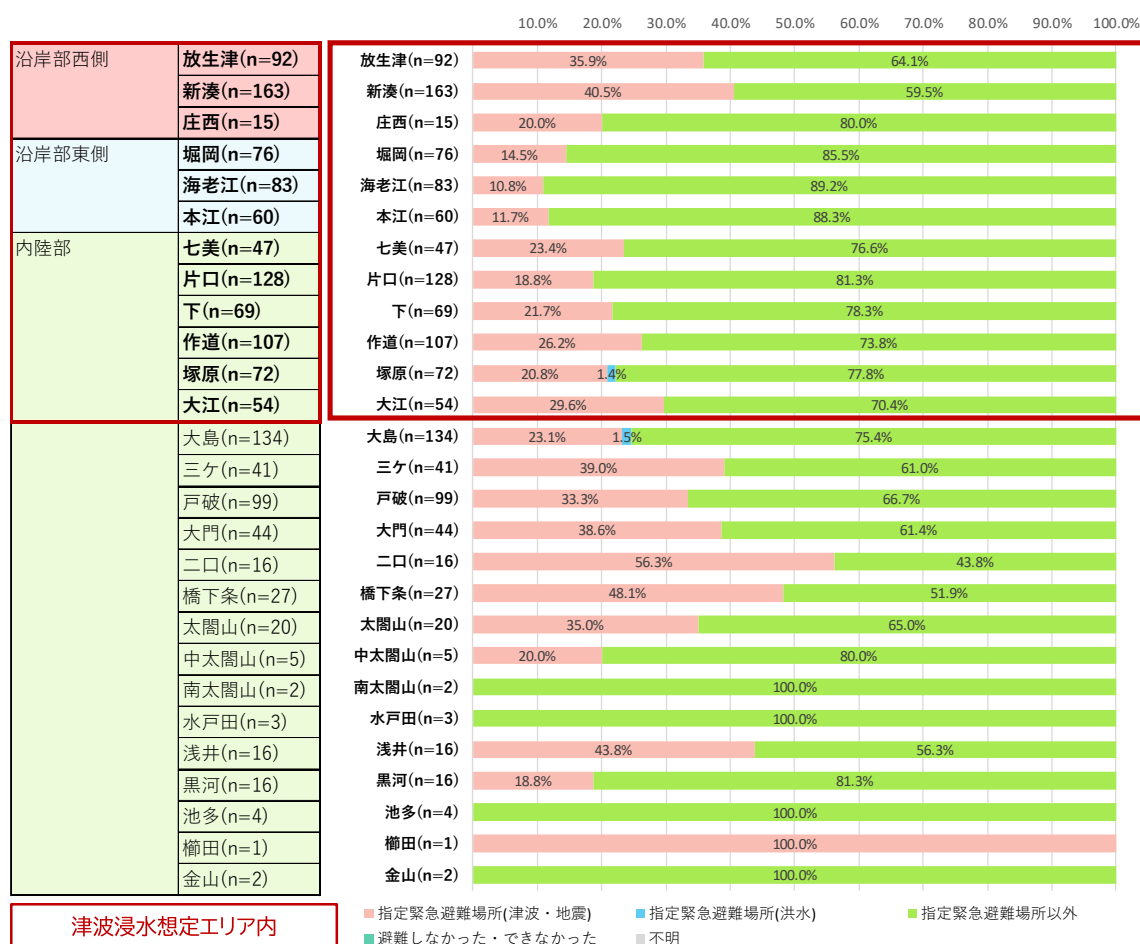
※指定緊急避難場所（洪水）

指定緊急避難場所のうち、対象とする異常な現象が洪水のみ対象の場所

<避難先別集計：車>

- ・津波浸水想定エリア内の振興会では、指定緊急避難場所以外へ車で移動した割合が高くなっている。
- ・津波浸水想定エリア外の振興会では二口、橋下条が指定緊急避難場所（津波・地震）の割合が高くなっている。

市民緊急アンケート：問5 避難行動における移動手段 避難先別集計（車）（n=1,425）



津波浸水想定エリア内

<施設により以下のとおり分類>

※指定緊急避難場所（津波・地震）

指定緊急避難場所のうち、対象とする異常な現象に津波、地震のどちらかが含まれる場所

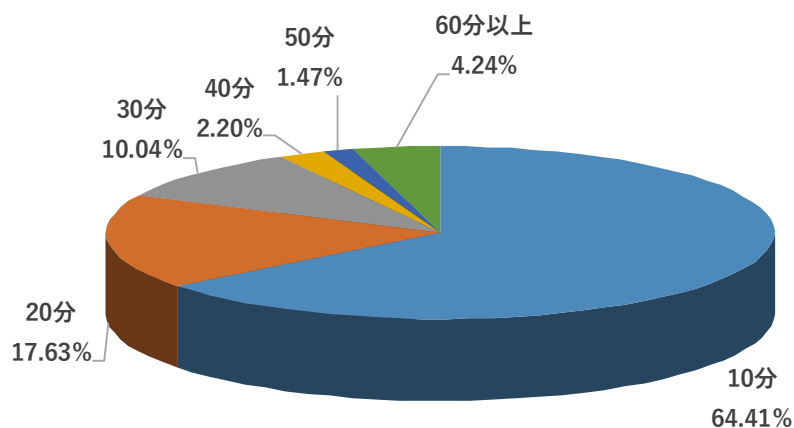
※指定緊急避難場所（洪水）

指定緊急避難場所のうち、対象とする異常な現象が洪水のみ対象の場所

⑥ 避難行動に要した時間

・徒歩で避難した割合が高い沿岸部西側（放生津、新湊、庄西）は7割以上が10分で避難場所に到着している。

市民緊急アンケート：問5 避難場所への避難に要した時間（n=1,225）



地区	10分	20分	30分	40分	50分	60分以上
放生津	72.85%	13.91%	6.62%	0.66%	1.99%	3.97%
新湊	71.50%	13.53%	8.70%	2.42%	1.45%	2.42%
庄西	90.32%	0.00%	0.00%	3.23%	3.23%	3.23%
堀岡	53.85%	9.62%	17.31%	3.85%	1.92%	13.46%
海老江	50.91%	7.27%	16.36%	3.64%	1.82%	20.00%
本江	44.83%	20.69%	20.69%	3.45%	6.90%	3.45%
七美	52.00%	20.00%	20.00%	0.00%	4.00%	4.00%
片口	44.78%	25.37%	19.40%	4.48%	2.99%	2.99%
下	58.18%	25.45%	14.55%	0.00%	0.00%	1.82%
作道	50.00%	19.77%	13.95%	3.49%	2.33%	10.47%
塚原	48.00%	30.00%	14.00%	8.00%	0.00%	0.00%
大江	48.39%	32.26%	12.90%	0.00%	0.00%	6.45%
大島	70.94%	20.51%	6.84%	0.85%	0.00%	0.85%
三ヶ	52.38%	23.81%	11.90%	2.38%	2.38%	7.14%
戸破	76.19%	21.43%	1.19%	1.19%	0.00%	0.00%
大門	75.68%	21.62%	2.70%	0.00%	0.00%	0.00%
二口	60.00%	40.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
橋下桑	85.00%	5.00%	5.00%	0.00%	0.00%	5.00%
太閤山	81.25%	12.50%	0.00%	0.00%	6.25%	0.00%
中太閤山	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
南太閤山	75.00%	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
水戸田	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
浅井	63.64%	18.18%	18.18%	0.00%	0.00%	0.00%
黒河	77.78%	22.22%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
池多	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
柳田	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
金山	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
総計	64.51%	17.79%	9.89%	2.08%	1.50%	4.24%

3-2. 人流データの分析

市民の避難行動等を把握するため、GPS位置情報ビッグデータから分析を行った。

(1) 調査の概要

【調査期間】 令和6年1月1日

【使用データ】 射水ケーブルネットワーク株式会社提供資料

- ・GPS位置情報ビッグデータをベースにした推計値
- ・20歳未満及び外国人のGPSデータは集計対象外

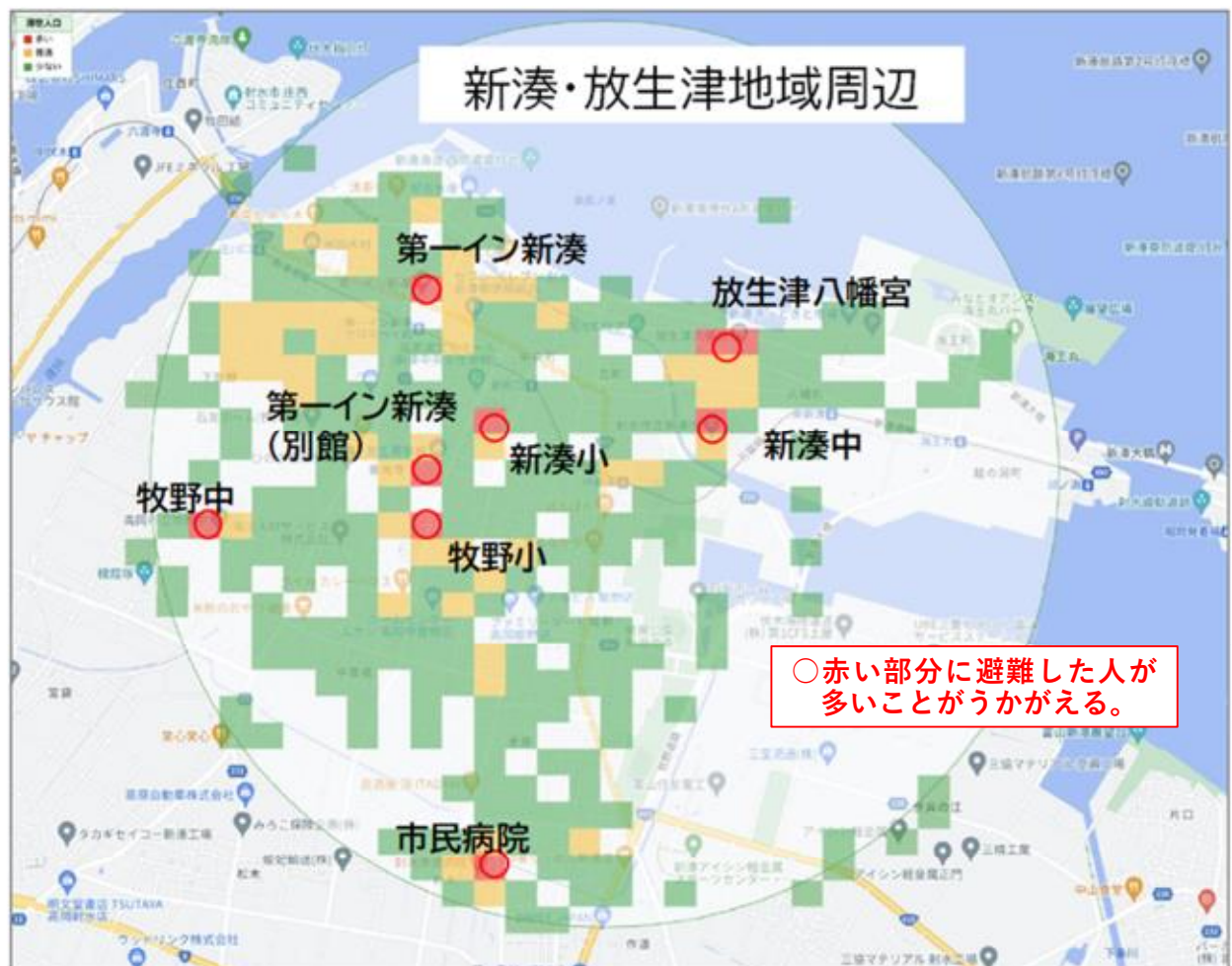
(2) 主な調査結果

① 滞在人口分析

<新湊・放生津地域周辺>

- ・16時から17時で5,035人、約27%の人がこの範囲外へ移動（避難）している。

滞在人口分析（新湊・放生津地域周辺）



<分析条件>

- 日時：令和6年1月1日
5:00～29:00（24時間）
- 滞在時間：15分以上
- 範囲：半径2.0km

時間	人数	増減
16時	18,388人	16時基準
17時	13,353人	△5,035
21時	15,168人	△3,220
25時	15,318人	△3,070

< 堀岡・海老江地域周辺 >

・16時から17時で2,672人、約43%の人がこの範囲外へ移動（避難）している。

滞在人口分析（堀岡・海老江地域周辺）



< 分析条件 >

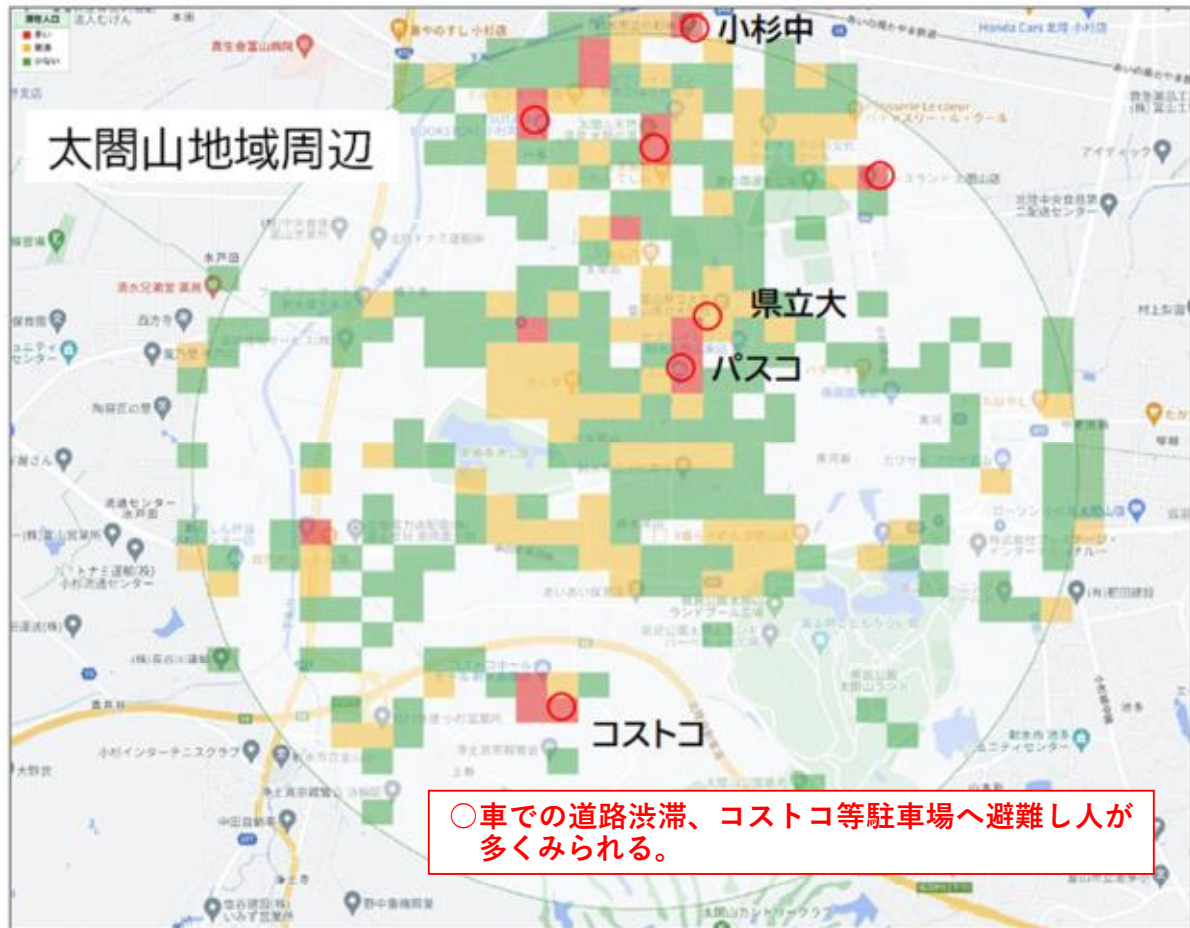
- 日時：令和6年1月1日
5:00～29:00（24時間）
- 滞在時間：15分以上
- 範囲：堀岡・海老江地域周辺

時間	人数	増減
16時	4,696人	16時基準
17時	2,024人	△2,672
21時	3,108人	△1,588
25時	3,220人	△1,476

< 太閤山地域周辺 >

・ 16時から17時で、4,332人（約27％）がこの範囲外から移動（避難）してきている。

滞在人口分析（太閤山地域周辺）



< 分析条件 >

- 日時：令和6年1月1日
5:00～29:00（24時間）
- 滞在時間：15分以上
- 範囲：半径2.0km

時間	人数	増減
16時	15,922人	16時基準
17時	20,254人	4,332
21時	16,365人	443
25時	15,602人	△320

② 人流分析

<新湊地区内道路状況>

・新湊市街から南へ向かう車で南北の道路が混雑している。



道路渋滞状況（令和6年1月1日）

国道472号 鏡宮付近



16:50分

橋下条交差点



17:10分

< 太閤山周辺道路状況 >

- ・ 国道472号や小杉駅南線において、北側から南へ向かう車が増加している。

道路状況（太閤山周辺）



3-3. 一般交通量(旅行速度)分析

地震発生後の道路状況を把握するため、幹線道路の旅行速度分析を行った。

(1) 旅行速度(昼間旅行速度)

<平日日中>

- ・沿岸部西側を東西に走る堀岡神明神能町線は10～20 km/hとなっている。
- ・射水市を南北に走る国道472号、新湊庄川線は20～40 km/hとなっているほか、太閤山戸破線、小杉婦中線はおおよそ20～40km/hとなっている。



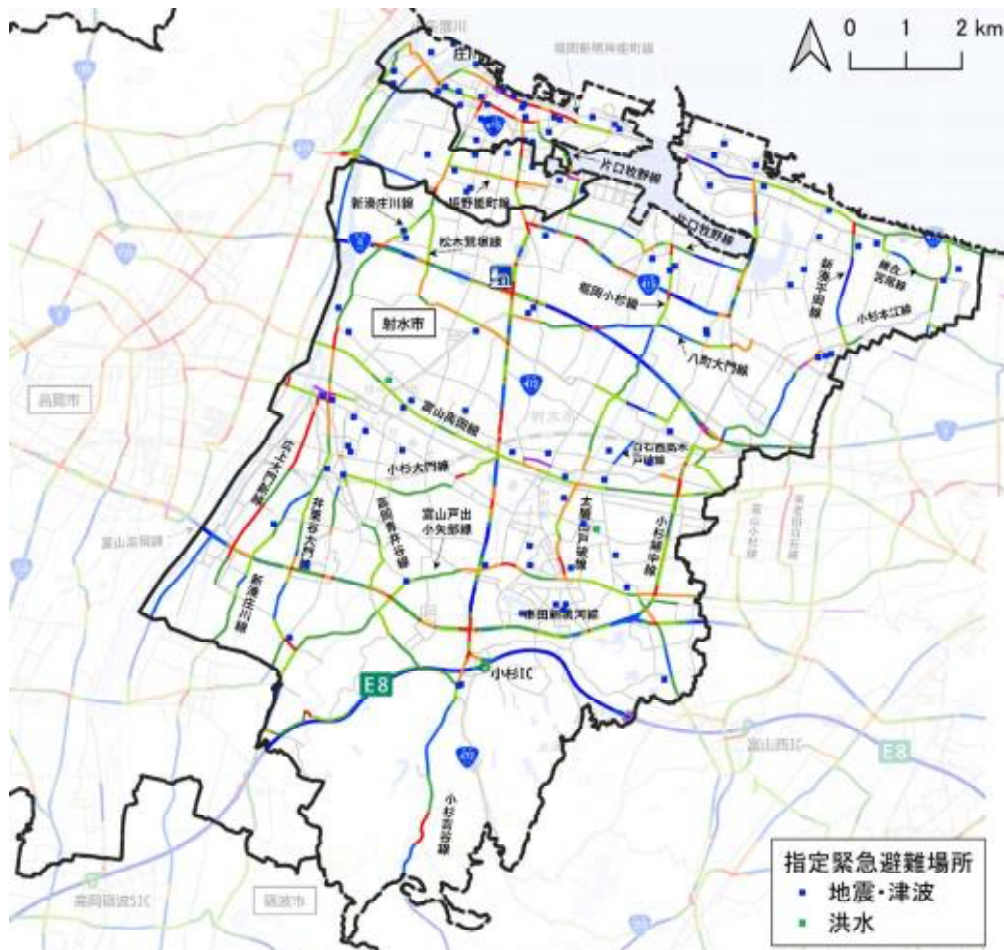
出典：令和3年度一般交通量調査（国土交通省）

(2) 平均速度

<1月1日 15時台（地震発生前）>

- ・市域全体では、一定の速度で進んでいる区間が長く、交通の流れはスムーズであることが分かる。

平均速度（1月1日 15時台）

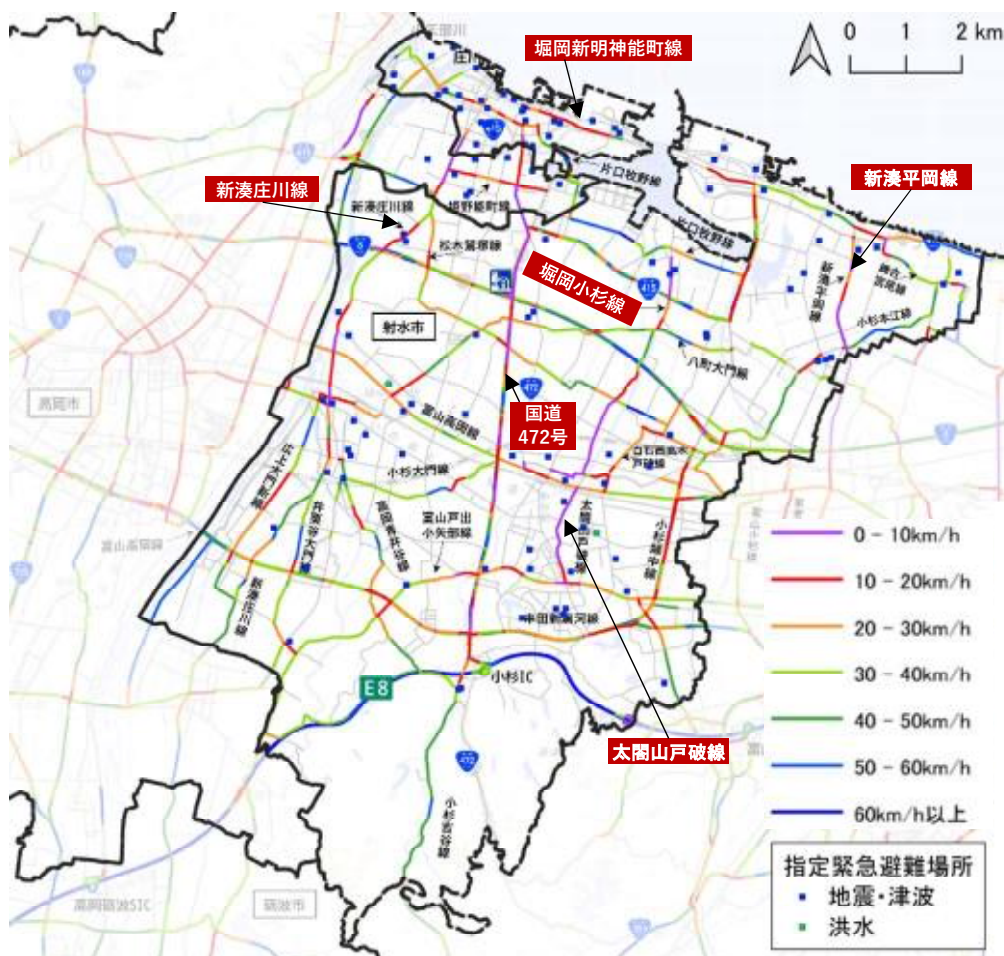


出典：国土交通省提供資料

<1月1日 16時台（地震発生直後）>

- ・市域全体で平均速度が20km/h以下の区間が多く見られ、市内の道路全体で、交通渋滞が発生していたことが分かる。
- ・沿岸部を東西に走る堀岡新明神能町線や国道415号等では10～20km/hの区間が長くなっている。
- ・南北を走る国道472号では沿岸部西側から約3.5kmの区間が0～10km/hとなっているほか、新湊庄川線、堀岡小杉線、太閤山戸破線、新湊平岡線においても0～10km/hの区間が長くなっていることから、多くの車が南北を移動しようとしたことが分かる。

平均速度（1月1日 16時台）

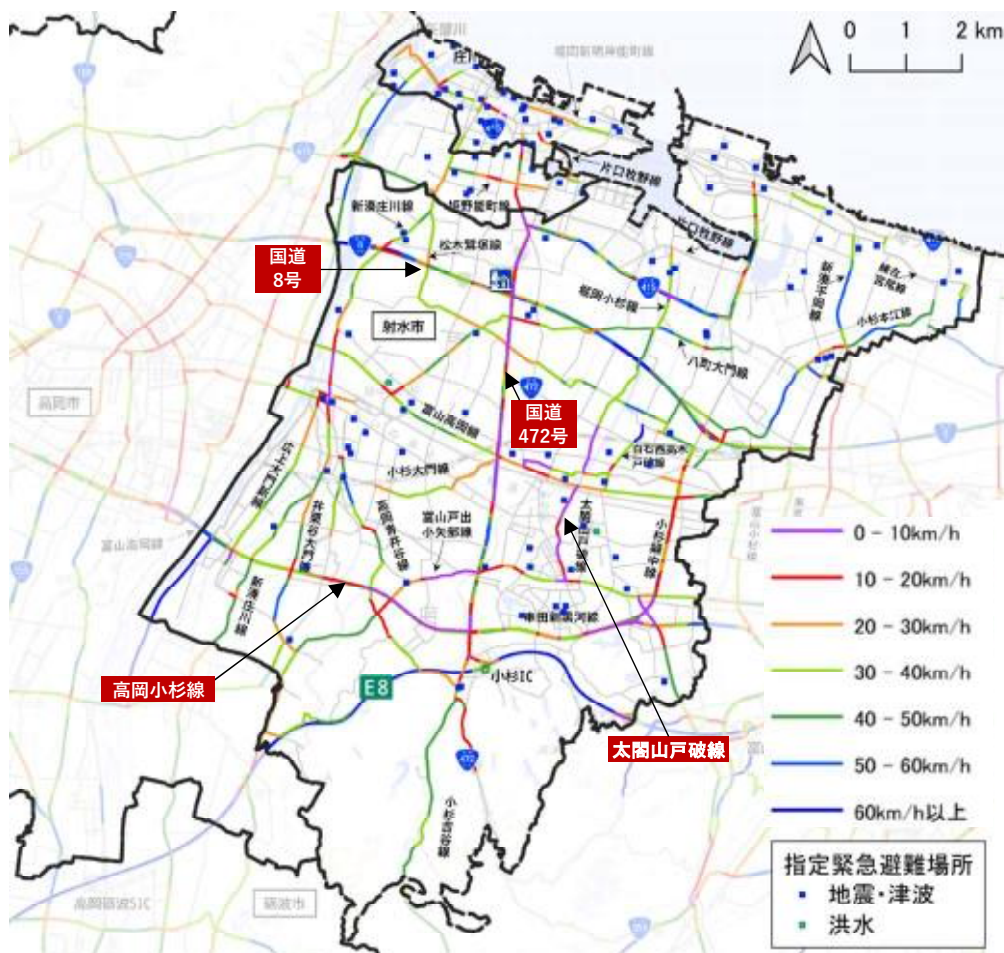


出典：国土交通省提供資料

<1月1日 17時台（地震発生1時間後）>

- ・市域全体では平均速度が20km/h以下の区間が少なくなっている。特に、国道8号より以北のエリアにおいてその傾向が顕著であり、国道472号等の一部のみとなっている。
- ・国道8号より以南エリアでは南北を走る国道472号や太閤山戸破線で0～10km/hの区間が見られるほか、東西を走る高岡小杉線においても0～10km/hの区間が発生している。

平均速度（1月1日 17時台）



出典：国土交通省提供資料

<1月1日 18時台（地震発生2時間後）>

- ・市域全体で平均速度が10km/h以下の区間が少なくなっており、交通渋滞が解消してきていることが分かる。
- ・南北を走る国道472号においても20km/h以下の区間はほとんど見られない。
- ・東西を走る高岡小杉線においては18時台においても0～10km/hの区間が見られる。

平均速度（1月1日 18時台）

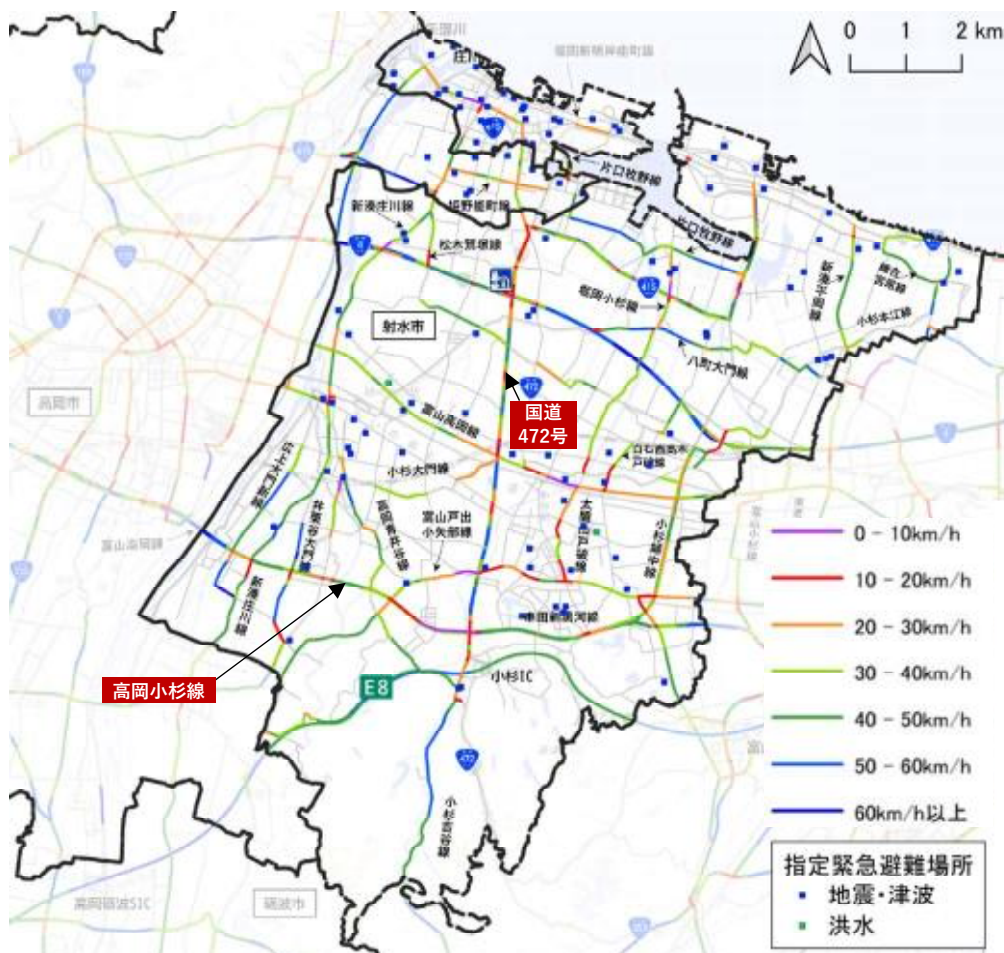


出典：国土交通省提供資料

<1月1日 19時台（地震発生3時間後）>

- ・市域全体でさらに平均速度が10km/h以下の区間が少なくなっている。
- ・南北を走る国道472号においても10km/h以下の区間はほとんど見られない。
- ・東西を走る高岡小杉線においては0～10km/hの区間が短くなっている。

平均速度（1月1日 19時台）



出典：国土交通省提供資料

3-4. 問題点・課題の整理

市民緊急アンケート調査や避難所(小中学校、地域振興会)アンケートの調査結果、人流データの分析等から下記の検証項目における問題点と課題を整理した。

検証項目	主な検証内容
①住民の避難行動	・避難行動の人流分析、避難時の道路渋滞 等
②避難所開設・運営	・鍵の解錠、避難所の運営、要配慮者への対応 等
③災害対策本部の運営	・対策本部の体制、情報発信 等
④関係機関との連携、受援体制	・関係機関との情報共有、受援体制(応援団体、協定先、災害ボランティアの受入) 等

(1) 検証項目:①住民の避難行動

住民の避難行動については、市民のおよそ半数がハザードマップを正しく理解しておらず、津波避難警報が発表された際にも避難しなかった人が一定数いたことが確認された。また、沿岸部から市南部方面への車での避難や避難の必要がない地域からの車での避難により、渋滞が深刻化した。

上記より、課題は以下のとおり整理される。

問題点		課 題
・ 市民のおよそ半数がハザードマップを正しく理解していない。 ・ 避難しなかった人が一定数いた。 ・ 沿岸部から市南部方面に向かう車で渋滞が発生した。 ・ 避難の必要のない区域の方が車で市南部方面に避難した。 ・ 津波警報が発表された際は、近くの避難場所へ原則として徒歩で移動することを理解していない。 ・ 地震・津波などの災害リスクの認知不足。	▶	①-① 津波ハザードマップの理解・周知
	▶	①-② 避難方法・手段
	▶	①-③ 地区ごとの避難方法の習熟

(2) 検証項目:②避難所開設・運営

避難所開設・運営については、避難所開設担当職員や施設管理者の到着が遅れたことから、沿岸部の小中学校において、ガラスを破って避難する事例が発生した。また、短時間に多くの避難者が殺到したため、避難者名簿の作成ができなかったほか、施設の利用区分や備蓄品の保管場所等について、施設及び地域間での状況共有がされていないことが問題となった。

上記より、課題は以下のとおり整理される。

問題点	課 題
・ 避難所開設担当職員、施設管理者が到着する前に避難者が到着し、施設内に入れない事例が発生。 ・ 沿岸部の小中学校でガラス等を破って避難した事例が発生（新湊小ほか4校）。 ・ 短時間で避難者が殺到した為、避難者名簿を作成できなかった。 ・ 施設内のどの部屋を使うか、備蓄品の場所等、施設及び地域と共有できていない。 ・ 避難場所（発災時に一時的に避難する場所）から避難所（一定期間滞在する場所）への切り替え時期が明確化されていない。 ・ ペット同行避難者への対応に苦慮した。 ・ 避難者に備蓄品（食料、水、備蓄品等）を提供するタイミングが不明確。	②－① 避難所の開設（解錠）
	②－② 配備職員の分掌事務（避難者名簿の作成等）の対応難
	②－③ 避難所内の利用区分
	②－④ 避難所の運営・運営主体等
	②－⑤ 備蓄品の不足・管理
	②－⑥ 要配慮者・避難行動要支援者への対応
	②－⑦ 女性のプライバシー等への配慮と女性視点の活用
	②－⑧ ペット同行避難への対応
	②－⑨ 避難者要望への対応（食料・物資の配布）

(3) 検証項目:③災害対策本部の運営

災害対策本部の運営については、市民から様々な問い合わせが殺到し、状況が刻々と変化する中で対応する職員が不足し、状況の整理や情報発信が困難になったことが明らかになった。

上記より、課題は以下のとおり整理される。

問題点		課 題
・ 市民から様々な問い合わせが殺到し、また、状況が刻々と変化するため、状況を整理できなかった。（対応する職員も不足）	▶	③－① 人員確保
・ 職員間は、チャットで連絡を取り合ったが、次々と新たな情報が入り錯綜し、必要な情報が埋もれて処理できなかった。 ・ 発災後の対応等について、詳細な活動記録を残すことができなかった。 ・ 情報を市民にどのタイミングでどう伝えるのか明確ではなかった（問い合わせ殺到の要因）。	▶	③－② 職員分掌事務の対応難
・ 職員参集メール（安否確認含む）が70件（約10%）しか返信がなく、参集職員の勤務実態を把握できなかった。 ・ 外国人キーパーソン（22名）へ外国人へのアンケートを実施したところ、発災時の情報伝達手段としてSNSが有効であるの回答があった。	▶	③－③ 避難者等への情報伝達手段

(4) 検証項目:④関係機関との連携、受援体制

関係機関との連携、受援体制については、市外からの応援職員を受け入れる体制が整っていなかったことや応急対策職員の派遣要請に時間を要し、迅速な対応が困難であったことが明らかになった。

上記より、課題は以下のとおり整理される。

問題点		課 題
・ 市外からの応援職員の受入体制の整備ができておらず混乱した。 ・ 応急対策職員派遣要請に時間を要した。 ・ 住家の被害認定調査や罹災証明発行業務の入力等の負担が大きく、処理に時間を要した。 ・ 地震発生が祝日であり、災害協定締結先と連絡が取れない事例があった。	▶	④－① 受援体制の機能不全

4. 見直しの方向性等

4-1. 検証項目:①住民の避難行動

(1) 津波ハザードマップの理解・周知

課題①-①

津波ハザードマップの理解・周知

地域防災計画・避難所開設・運営マニュアル等の対応箇所（抜粋）

[地域防災計画]

津波ハザードマップの普及・啓発

「射水市津波ハザードマップ」を、市ホームページ、広報誌等を通じ公表し、住民への啓発を行うとともに、ワークショップ、市政出前講座を開催し、内容を住民に周知する。

市は、射水市津波ハザードマップを住民に周知し、市の津波の特徴、津波の浸水範囲、避難路、避難場所など津波災害に際する避難について、知識の普及・啓発を実施する。また、市は、津波からの避難対策のため津波相談窓口を設置し、住民に対し、市の津波の特徴の説明を行うとともに、避難意識の高揚を図る。

※地域防災計画

災害対策基本法に基づき、地方自治体の防災会議が作成する計画。

※地区防災計画

市町村内の一定の地区の居住者及び事業者（地区居住者等）が自発的に行う防災活動について定める計画。

対策案	見直しの方向性等	短期 (1年～2年)	中期 (3年～5年)
・原則、徒歩による避難を周知	・津波ハザードマップの普及と啓発を推進するため、市広報で一層周知するとともに、各地区で市による出前講座を行い、地区全体の防災意識の向上に努める。	出前講座を実施	継続的に実施
・津波を想定した避難方法を検討し、実効性のある訓練を実施	・各地区において避難経路の確認や共助を基本とする避難行動（避難の呼びかけ、要配慮者の介助）など、実践的な津波避難訓練を継続して実施することにより、住民一人ひとりの避難行動の習熟度を高める。 ・市は実践的な訓練について助言するなど積極的支援を行い、訓練実施を促進する。	地区防災計画策定を推進し継続的に実施	
・海拔表示看板を拡充（増設、浸水深を追記）	・津波リスクのある沿岸部を中心に浸水深や海拔を記した看板を段階的に増設し、住民の防災意識の高揚を図る。	看板更新・増設	県地震被害想定結果にて更新

(2) 避難方法・手段

課題①－②

避難方法・手段

地域防災計画・避難所開設・運営マニュアル等の対応箇所（抜粋）

[地域防災計画]

徒歩避難の原則

落下物、道路の損傷、渋滞・交通事故等が発生するおそれがあることから、津波発生時の避難については、徒歩によることを原則とする。ただし、各地域において、津波到達時間、避難場所までの距離、要配慮者の存在、避難路の状況等を踏まえ、やむを得ず自動車により避難せざるを得ない場合は、市は、避難者が自動車で安全かつ確実に避難できる方策を、警察と調整の上、あらかじめ検討する。

[津波避難計画]

避難の原則

津波避難対象区域外のできるだけ内陸部又は高台へ避難する。時間的・地理的要因により、避難対象区域外に避難できない場合は、指定緊急避難場所等を活用し避難する。

避難方法

徒歩を基本とする。ただし以下の場合は車両の使用を認める。①高齢者や障害者などが長い距離を避難する場合②避難者が自力で避難できない等。

対策案	見直しの方向性等	短期 (1年～2年)	中期 (3年～5年)
・自動車による避難ガイドラインの検討	・人流分析結果を踏まえて、自動車による避難の運用方法について検討し、自動車による避難ガイドラインを作成するなど市民への周知を図る。	ガイドライン調査・作成 →	周知啓発・訓練 →
・渋滞箇所をハザードマップに追記し、可視化することで徒歩による避難を促進	・ハザードマップにおいて、想定される範囲の渋滞箇所とそのリスクを可視化することで、車での避難を抑制し、徒歩による迅速な避難を促進する。	ハザードマップの周知 →	県地震被害想定結果にて更新 →
・指定緊急避難場所の確保	・時間的・地理的要因により、避難対象区域外に避難できない場合のリスクを軽減するため、沿岸部を中心に指定緊急避難場所の確保に努める。	緊急避難場所の確保 →	
・地区防災計画策定の推進に合わせて、「マイ・タイムライン」の作成を促進	・津波避難計画を見直すなど、地区ごと・ケースごとの最適な避難場所・避難方法等の情報提供を図る。また、地区防災計画の策定と絡めて、住民一人ひとりの「マイ・タイムライン」の作成を促進する。	地区防災計画策定を推進し、出前講座を継続的に実施 →	

【事例紹介】

津波災害時における自動車による避難ガイドライン【福島県いわき市】

平成28年11月、東日本大震災後初めてとなる津波警報の発表に伴い、自動車での避難行動をとった方が多く、道路渋滞等が発生したことを課題として捉え、津波災害時における自動車による避難の指針となるガイドラインを決定した。

要配慮者及び支援者等による自動車訓練の様子



出典：いわき市ホームページ

<津波災害時における自動車による避難ガイドライン抜粋>

■基本的な考え方

津波災害時の避難方法は、最寄りの津波避難場所や高台などへ**原則徒歩**とする。

ただし、最寄りの津波避難場所や高台まで相当な距離がある場合、また、**避難行動要支援者等徒歩での避難が困難な場合**など、やむを得ず自動車により避難する場合は、徒歩による避難行動を妨げることもないよう、かつ、津波浸水想定区域より内陸部へ移動するよう促すこととする。

■自動車による避難

やむを得ず自動車による避難をされる方は、最寄り（500m範囲内）の津波避難場所や避難所を目指すのではなく、津波浸水想定区域外に避難する。

また、**避難行動要支援者等を同乗させ最小の台数で避難**できるよう、日頃から地域内において協議しておく。

(3) 地区ごとの避難方法の習熟

課題①－③

地区ごとの避難方法の習熟

地域防災計画・避難所開設・運営マニュアル等の対応箇所（抜粋）

[地域防災計画]

自主防災組織等の育成・強化

地域における防災活動の中心となる、自主防災組織の育成・強化を図るとともに地区防災計画の策定に努め、地域防災力の向上に努める。

住民に求められる津波からの避難等

避難の際、周囲に避難を開始していない人がいたら、積極的な声かけにより避難を促すとともに、自らが地域における率先避難者となるよう努めること。

[津波避難計画]

津波に対する教育・啓発及び訓練の実施

ワークショップの開催 地区ごとの状況に応じた津波避難計画を策定するために、地区住民等の参画を得て、まちまわり等により避難先や危険箇所等の確認を行う。

対策案	見直しの方向性等	短期 (1年～2年)	中期 (3年～5年)
・津波ハザードマップの浸水リスクを周知	・津波ハザードマップの普及と啓発を推進するため、市広報で一層周知するとともに、各地区で市による出前講座を行い、地区全体の防災意識の向上に努める。【再掲】	マップの周知を継続的に実施	や出前講座を実施 県地震被害想定結果にて更新
・地域防災計画やマニュアル等において、地区防災計画の策定推進方法を具体的に記載	・市で出前講座等を実施し、地区防災計画策定のプロセスや立案の重要性等を示す。計画作成の手引きの活用や防災士をアドバイザーとして派遣する制度等を活用し、計画策定を推進する。	地域防災計画を見直し各地区の地区防災計画策定を推進	
・危険度の高い地域への積極的な対応を検討	・避難困難地区など危険性が高いエリアについては、市が地区防災計画の策定を優先的に働きかける。避難困難地区では専門的な知見や幅広い検討が特に必要であり、防災士等の派遣も含めて計画策定に関する支援を重点的に講じる。	地区防災計画策定の推進	

4-2. 検証項目:②避難所開設・運営

(1) 避難所の開設(解錠)

課題②-①

避難所の開設（解錠）

地域防災計画・避難所開設・運営マニュアル等の対応箇所（抜粋）

[地域防災計画]

避難所の運営主体

避難所は、避難所開設担当職員、施設管理者、避難者（住民）の三者が協力して開設・運営する。ただし、震災などの大規模かつ突発的な災害時には、住民だけでなく市職員及び施設管理者も被災者となり、市による避難所開設が間に合わない状況も予想されるため、避難者による自主的な避難所運営が必要となる。この場合、避難者が避難所運営の主体となり、市及び施設管理者は、後方支援を行う。

[避難所開設・運営マニュアル]

避難所施設の鍵の保管

鍵の保管・管理方法等を事前に決定し、避難所ごとに「鍵管理・緊急時連絡先一覧」を作成し、定期的に見直し、更新する。

対策案	見直しの方向性等	短期 (1年～2年)	中期 (3年～5年)
・ 解錠ボックスの設置や緊急時にガラスを割る位置を共有	・ 沿岸部のコミュニティセンター、小中学校を中心に地震解錠ボックスを段階的に設置する。 ・ 避難訓練において、避難所開設担当職員、施設管理者、避難者（住民）の三者協力による避難所開設・運営の訓練を継続して実施することで、避難所の開設（解錠）手順等の習熟を図る。	地震解錠ボックスの設置 	避難所開設・運営訓練を継続的に実施 
・ ファーストミッションボックス（避難所開設・運営の手順等をまとめたもの）の設置	・ 避難所の施設職員や担当職員よりも避難住民が早く到着した場合でも、住民自ら施設の解錠ができるように、地震解錠ボックスやファーストミッションボックスの設置と運用に関する事項を避難所開設・運営マニュアル等に追記し、その活用方法について住民に周知を行う。	ファーストミッションボックスの設置 	避難所開設・運営訓練を継続的に実施 

(2) 配備職員の分掌事務(避難者名簿の作成等)の対応難

課題②-②

配備職員の分掌事務（避難者名簿の作成等）の対応難

地域防災計画・避難所開設・運営マニュアル等の対応箇所（抜粋）

[地域防災計画]

[避難所開設・運営マニュアル]

避難者名簿の作成・管理

避難者名簿への記入は、世帯単位で避難者自身が記入し、避難者グループの代表者または被災者管理班に提出してもらう。受付窓口で対応できない場合は、避難者グループ代表者に協力を依頼し、避難者名簿への登録を徹底する。

応急避難所準備組織の立上げ

避難者の安全を確保するため、応急的な避難所運営組織として「応急避難所準備組織」を立ち上げ、避難所の状況確認を素早く実施する。

対策案	見直しの方向性等	短期 (1年～2年)	中期 (3年～5年)
・避難所における人数把握、円滑な被災者支援のため、デジタル技術を活用したシステムの導入を検討	- 施設の運営や管理の効率化・改善に向けて直ぐに取り組める方法等について、デジタル技術の活用も含めて検討を進める。 - 現在、県と共同で実証実験を行っているデジポックとやま(災害時避難者の情報管理等)の結果を踏まえて、避難所開設・運営や物資管理の効率化を図る。	デジタル技術の導入を検討し効率化を図る →	
・避難所運営組織の立ち上げ方法や習熟方法等について検討	- 避難訓練において、避難所開設担当職員、施設管理者、避難者（住民）の三者協力による避難所開設・運営の訓練を継続して実施することで、避難所の開設（解錠）手順等の習熟を図る。【再掲】 - 市は実践的な訓練マニュアル等の作成・提供などによる積極的支援を行い、訓練実施を促進する。【再掲】	地区防災計画策定を推進 →	避難所開設・運営訓練を継続的に実施

(3) 避難所内の利用区分

課題②-③

避難所内の利用区分

地域防災計画・避難所開設・運営マニュアル等の対応箇所（抜粋）

[避難所開設・運営マニュアル]

避難者受入スペースの確認(事前対策)

各避難所において、避難者を受入れるスペース（施設・部屋等）について、事前に自主防災組織、施設管理者及び市で確認を行っておく。特に、受入れてはならない施設・部屋や使用する施設・部屋の優先順位について事前に検討を行い、相互理解を得ておくこととする。

避難所のスペースの一部に、高齢者、障がい者等の要配慮者の専用スペースを設置できる場所を確保し、間仕切り板、簡易ベッド、車椅子、障がい者用トイレ、スロープ等の整備に努める。また、発熱・咳等の症状が出た避難者のための専用スペースを設置できる場所も確保し、一般避難者とゾーンや動線を区別できるよう配慮する。

対策案	見直しの方向性等	短期 (1年～2年)	中期 (3年～5年)
・ 避難所の適正な収容可能人数について、施設毎の設定が可能か検討	・ 避難所の環境改善のため、国が示す指針に沿って、避難所ごとに実質的な収容可能人数を算出し、避難計画等に反映する。	避難所毎の実質的な収容人数を調査	
・ 施設の使用場所や備蓄品の場所等、施設管理者・地域・市で協議し、事前に決定	・ 避難所ごとに施設の特性に合わせた利用区分・利用規定等について三者協議で定め、事前に地域住民への周知を図る。また施設の利用区分・利用規定等をファーストミッションボックスに同梱することで、開設当初から避難者同士で確認・共有ができるようにし、円滑な避難所運営を図る。	ファーストミッションボックスを配置し、地区防災計画策定を推進	
・ ファーストミッションボックスと絡めた運用		避難所開設・運営訓練を継続的に実施	

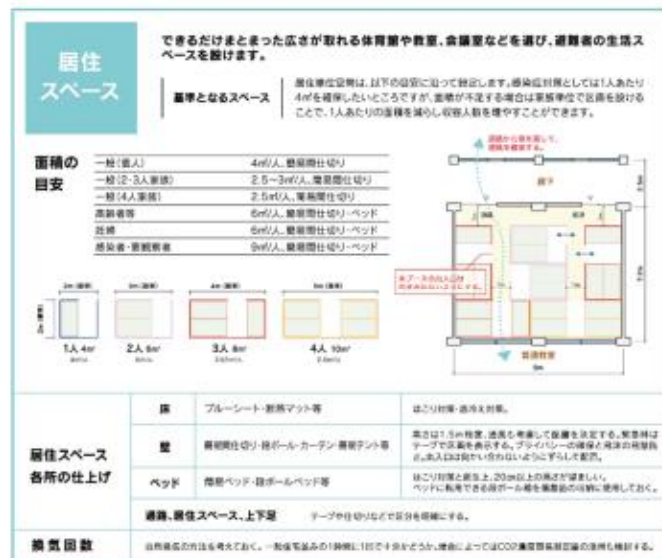
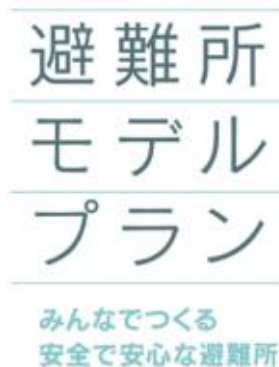
【事例紹介】

避難所モデルプランの作成【三重県】

三重県では、地域でマニュアルづくりを進めていくため基本モデルを作成した。各地域において、この基本モデルをベースとして、部屋のレイアウト等を検討しながら地域毎の避難所運営マニュアルの作成を進め、住民の自治による開設・運営を目指している。



避難所モデルプラン作成パンフレット【（一社）東京都建築士事務所協会】



出典：（一社）東京都建築士事務所協会

(4) 避難所の運営・運営主体等

課題②-④

避難所の運営・運営主体等

地域防災計画・避難所開設・運営マニュアル等の対応箇所（抜粋）

[避難所開設・運営マニュアル]

応急避難所準備組織の立上げ

避難者の安全を確保するため、応急的な避難所運営組織として「応急避難所準備組織」を立ち上げ、避難所の状況確認を素早く実施する。

応急避難所準備組織の設置

ア) 避難者が20人程度集まった時点で応急的な組織作りを始める。

イ) 組織のリーダー1名、サブリーダー2名を選出する。

※ リーダーとなる人は、自治会・町内会、自主防災組織の役員、その他避難者から推薦された人

対策案	見直しの方向性等	短期 (1年～2年)	中期 (3年～5年)
・ 避難所の特性に合わせて、避難所ごとに施設運用を検討	- 各避難所において、三者（避難者、施設管理者、市職員）の協力体制による避難所運営について具体的に役割分担等を決定する。 - 実践的な訓練を継続して実施することで、マニュアルの改善を適宜行いつつ、習熟を図る。	ファーストミッションボックスを配置し、避難所運営方法を決定 	避難所開設・運営訓練を継続的に実施
・ 避難所の立ち上げにおけるリーダー選出の必要性や選出方法を周知	避難所運営組織のリーダー、サブリーダー、支援スタッフ等の役員について事前に決めておく。また、地域の防災訓練等を通じて習熟を図る。	避難所運営方法を決定し共有 	避難所開設・運営訓練を継続的に実施

(5) 避難方法・手段

課題②-⑤

備蓄品の不足・管理

地域防災計画・避難所開設・運営マニュアル等の対応箇所（抜粋）

[地域防災計画]

食料等の調達・確保及び防災資機材等の整備

被災者に最低限の食料、飲料水及び生活必需品等の供給が円滑に行えるよう、現物備蓄や流通備蓄の体制を定めておくとともに、防災資機材等の整備を推進する。更に、要配慮者に配慮した品目を積極的に補充する。また、震災時に必要不可欠な最低限の食料、飲料水及び生活必需品については、「個人で備蓄しておくことが基本である。」という認識により、市は、日ごろから、個人備蓄の啓発・奨励を行う。

対策案	見直しの方向性等	短期 (1年～2年)	中期 (3年～5年)
・各施設に備蓄品の保管スペースの確保（拡大）について協力依頼し、備蓄数量の増に努める	・施設管理者と協議を行い、備蓄品の保管スペースの拡大と、備蓄品目や数量の増加を図る。	各避難所での備蓄品の保管スペースを確保 → 備蓄量の見直し・補充	
・施設側と協議の上、必要な物資の設置を検討			
・デジタル技術を活用した備蓄品の管理・運用	・現在県と共同で実証実験を行っているデジパックとやま(災害時避難者の情報管理等)の結果を踏まえて、避難所開設・運営や物資管理の効率化を図る。【再掲】	デジタル技術の導入を検討し効率化を図る →	
・家庭での備蓄の推進	・個人備蓄が基本であることから、出前講座や市広報等での周知により、個人備蓄の啓発・奨励を行い、自助の推進を図る。	個人備蓄の周知 →	

(6) 要配慮者・避難行動要支援者への対応

課題②-⑥

要配慮者・避難行動要支援者への対応

地域防災計画・避難所開設・運営マニュアル等の対応箇所（抜粋）

[避難所開設・運営マニュアル]

避難者受入れスペースの確認

避難所のスペースの一部に、高齢者、障がい者等の要配慮者の専用スペースを設置できる場所を確保し、バリアフリー設備の整備に努める。

[地域防災計画]

避難行動要支援者の支援体制の整備

避難支援等関係者に対し、あらかじめ避難行動要支援者名簿を提供し、避難行動要支援者に対する情報伝達体制の整備、避難支援・安否確認体制の整備、避難訓練の実施等を一層図るものとする。

[避難所開設・運営マニュアル]

要配慮者への救護（救護班の業務）

要配慮者の避難所での生活の障がいを取り除くために、要望を聞き、必要な設備・用具を調達する。

対策案	見直しの方向性等	短期 (1年～2年)	中期 (3年～5年)
・要配慮者のため、授乳等で利用するスペースを事前に決めておく	・避難所の利用区分の一部として、要配慮者の受け入れスペースについて地区防災計画に定め、地区住民への周知を図る。	地区防災計画策定を推進し、利用区分を決める	避難所開設・運営訓練を継続的に実施
・避難行動要支援者に対する地域の支援マニュアルを作成し、支援協力体制を確立	・避難行動要支援者に係る、個別避難計画の作成を推進し、個別避難計画に沿った実践的な避難訓練を福祉施設等とも連携して継続的に実施し、関係者との協働体制の構築や支援者の習熟を図る。	個別避難計画作成を推進	避難訓練を継続的に実施
・要配慮者に配慮した品目を積極的に補充することを検討	・施設関係者や実務担当者等の意見を踏まえて、要配慮者に必要な物資の補充・調達を検討する。	備蓄品の調達・補充	

(7) 女性のプライバシー等への配慮と女性視点の活用

課題②-⑦

女性のプライバシー等への配慮と女性視点の活用

地域防災計画・避難所開設・運営マニュアル等の対応箇所（抜粋）

[避難所開設・運営マニュアル]

避難スペースの確保

女性専用室（更衣、授乳、乳幼児室、洗濯場、洗濯物干し場、洗面所）の確保に努める。女性用の施設については、人の目線や導線等についての配慮を行う。

避難者の最低限のプライバシーが確保されるよう、間仕切りやついたてなどの資機材の調達を検討する。

避難所運営委員会

運営委員会は、自主防災組織の役員や各活動担当の長、市災害対策本部・避難所班員、施設管理者等で構成する。

特に、要配慮者（高齢者、障がい者、子ども等）への支援や男女のニーズの違いなどに配慮し、女性を積極的に登用する。

対策案	見直しの方向性等	短期 (1年～2年)	中期 (3年～5年)
・段ボール間仕切り等によるプライベートスペースや更衣室、妊産婦のための授乳室等の確保	・女性のプライバシーに配慮した専用スペースの確保や動線配置などについて避難所ごとに地域の事情に応じて事前に決めておくなど、円滑な避難所運営に努める。	避難所毎の利用区分を決める	避難所開設・運営訓練を継続的に実施
・男女のニーズの違いなどに配慮し、運営スタッフに女性を積極的に登用	・避難所運営スタッフに女性を積極的に登用することに留意し、適切な避難所運営体制の構築に努める。	女性スタッフの登用に努める	
・セクシャルマイノリティへの配慮について、マニュアル等へ記載	・セクシャルマイノリティへの配慮について国や県の指針に基づき、必要に応じて計画やマニュアル等を見直す。	国や県の指針等、情報を収集しマニュアルに反映	

(8) ペット同行避難への対応

課題②-③

ペット同行避難への対応

地域防災計画・避難所開設・運営マニュアル等の対応箇所（抜粋）

[避難所開設・運営マニュアル]

ペット連れの避難者への対応

ペット連れの避難者に対しては、ペットの飼育ルールを説明するか、又はコピーを配布し、管理の徹底を図る。ペットの飼育場所を居住スペースから離れた場所に設置する。ペットの飼育は、ペットを持ち込んだ避難者自身が行うものとする。

対策案	見直しの方向性等	短期 (1年～2年)	中期 (3年～5年)
・ ケージに入れての避難 や屋外での飼育スペース等確保	・ ペットの飼育場所について、避難所開設・運営マニュアルに沿って適切な運用が実施されるよう、避難訓練等を通じて習熟を図る。	避難所毎の飼育場所を調査	
・ ペット同行避難所の検討	・ 避難所ごとに実質的な収容人数を検討するなかで、ペット同行避難所や避難スペースの確保について調査する。	ペット同行避難について周知し、訓練を継続的に実施	

ペットのための災害対策関連情報【宮城県仙台市】

災害時

《ペットの命を守ることは、人の命を守ること》

ペットも一緒に同行避難！

★仙台市の避難所運営マニュアルには「ペット連れ避難者への対応」の記載があります。

仙台市の避難所運営マニュアルを参考に、
（４）中マニュアルシート⑧をごらん下さい。

仙台市の避難所
運営マニュアル
QRコード





「ペット連れ避難者への対応」

- ペットと一緒に避難する前に30分ほど、避難場所に入りやすいように犬の足、ペットの衣服などについて確認し、7歳未満の子どもの乗付が必要です。
- 犬のリードを短く、フリスビー・遊具類などを持ち込んで避難し、フリスビーなど投げる行為は禁止です。

仙台市被災動物救援対策連絡会

公益社団法人仙台市獣医師会 TEL 022-387-5225
 アニマル仙台（仙台市動物管理センター）
 NPO法人エーキューブ

48

(9) 避難者要望への対応(食料・物資の配布)

課題②-⑨

避難者要望への対応（食料・物資の配布）

地域防災計画・避難所開設・運営マニュアル等の対応箇所（抜粋）

[避難所開設・運営マニュアル]

食料・物資の配布

配布を行う場合には、配布ルールを決め、委員会の協力を得てから実施する。物資や食料が避難者数に足りない場合は、高齢者、子ども、妊婦等の避難者へ優先的に配布する。配布に当たっては、状況に応じて適切な方法により配布を行う。

対策案	見直しの方向性等	短期 (1年～2年)	中期 (3年～5年)
・ 地域防災計画等に避難先の切り替え時期や備蓄品の提供時期について明記	・ 食料・物資の配布について、避難所開設・運営マニュアルに沿って適切な運用が実施できるよう、避難訓練等を通じて習熟を図る。	避難所開設・運営マニュアルの見直し	
・ 各避難所での運営スタッフの役割の明確化及び担い手育成について検討	・ 避難所運営主体となる三者の連携による実践的な訓練を継続的に実施することで、運営スタッフの役割の習熟や担い手育成を図る。	避難所開設・運営訓練を継続的に実施	
・ 女性に配慮した物資の配布方法について検討	・ 避難所内において、女性専用の配布品受渡しブース等をプライバシーに配慮して設置する。		

4-3. 検証項目:③災害対策本部の運営

(1) 人員確保

課題③-①

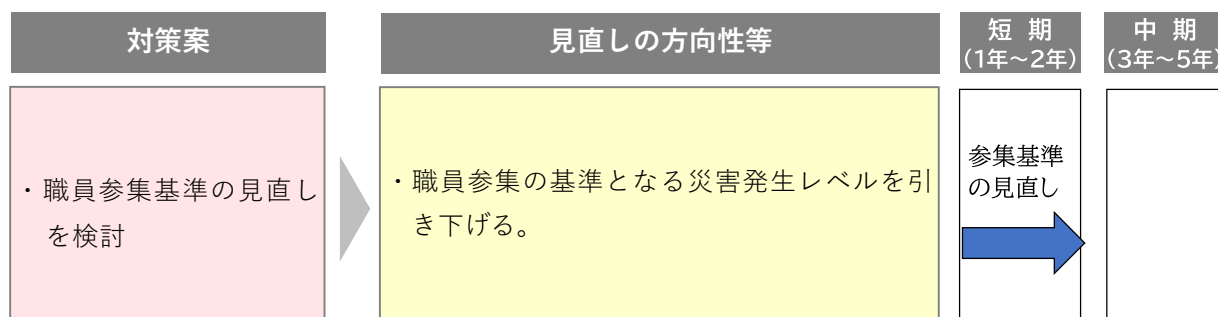
人員確保

地域防災計画・避難所開設・運営マニュアル等の対応箇所（抜粋）

[地域防災計画]

第2次非常配備、第3次非常配備の職員参集基準

	災害発生レベル	職員参集基準
第2次 非常配備	「震度5強」 及び 「津波警報発表」	各部長、班長、係長以上が参集 (職員総数の1/3程度)
第3次 非常配備	「震度6弱以上」 及び 「大津波警報発表」	職員全員が参集 「避難所開設担当職員」は各担当避難所へ参集



(2) 職員分掌事務の対応難

課題③-②

職員分掌事務の対応難

地域防災計画・避難所開設・運営マニュアル等の対応箇所（抜粋）

[地域防災計画]

射水市職員行動マニュアルの活用・充実

災害発生時、各部各班の初動期における活動を迅速かつ的確に行うため、修正等を行い、充実を図る。

初動体制の習熟

初動段階の成否がその後の応急対策活動に大きく影響することから、特に初動段階の意思決定者、配備基準、指揮命令系統について、職員参集訓練及び災害対策本部設置訓練を実施し、習熟を図る。

対策案	見直しの方向性等	短期 (1年～2年)	中期 (3年～5年)
災害対策本部での各担当班が自律的に機能するよう体制を周知、確認	- 災害対策本部において各担当班からの情報集約・共有を密にし、各担当班が刻々と変化する災害状況をリアルタイムで総合的に把握でき、的確な支援活動ができるように体制の強化を図る。また、実践的な防災訓練等を通じて習熟を図る。 - 現行の計画に記載のとおり、実践的な訓練を通じて、関係各部各班の役割の習熟に努める。	災害時の体制確認 	本部設置訓練を継続的に実施 
情報収集・伝達、広報活動等でデジタル技術を活用し、円滑かつ効果的な手法を検討	現在、双方向で情報共有が可能な職員間の通信システム（ロゴチャット）を導入しているが、情報収集・伝達、広報活動等において、より有効な通信手段の検討・充実を図る。	防災行政無線の更新方法の調査・機器更新に伴い調査検討 	

【事例紹介】

A I 防災チャットボット【兵庫県伊丹市】

伊丹市では令和3年6月1日より、防災に特化した伊丹市LINE公式アカウント「伊丹市防災」を運用。

AI防災チャットボットを活用し、災害時に伊丹市内の状況を市民等のユーザーからリアルタイムに被害情報を収集・集約し、その情報を伊丹市役所内部および関係機関と情報共有を図るとともに、ユーザーに気象情報や避難情報をはじめとする行政情報を提供することで、災害時に自助および共助の適切な行動ツールとしている。




LINE防災アプリ 「伊丹市防災」

防災アプリ機能

災害情報登録 周りの災害情報を送信することで、利用者間でその情報を「災害情報（地図）」で共有します。 	災害情報(地図) 	気象・防災情報 【天気予報】 「位置情報」で登録した場所の12時間先までの天気予報をピンポイントで取得できます。 【台風情報】 台風進路予想図を確認できます。 【警報・地震情報 (PUSH配信)】 地震や気象警報等に関する災害が発生する恐れのある情報を情報ごとに、プッシュ型のメッセージ配信でお知らせします。 【避難情報・避難所情報(Lアラート)】 ○避難情報 市内の高齢者等避難・避難指示・緊急安全確保に関する情報を取得できます。 ○避難所 Lアラートと連携し、避難所開設情報を登録位置情報から近い避難所を3つ取得できます。
避難支援(実証中) AIチャットボットが避難情報などの情報をもとに避難誘導することで、円滑な避難を支援します。 ※現在は、民間と共同研究中であるため、(実証中)の表記中は、実際の災害では参考程度にご利用ください。	災害情報登録 災害情報地図 感染症情報 避難支援 気象・防災情報 Web版防災マップ 防災情報サイト ユーザ設定	Web版防災マップ（内水、洪水、土砂災害、高潮）のホームページを掲載 Web版防災マップ
防災情報サイト 屋外拡声器の放送内容、被害状況、日頃の備えなどの防災のホームページのリンクを掲載	感染症情報のホームページのリンクを掲載 感染症情報	

出典：兵庫県伊丹市ホームページ

(3) 避難者等への情報伝達手段

課題③－③

避難者等への情報伝達手段

地域防災計画・避難所開設・運営マニュアル等の対応箇所（抜粋）

[地域防災計画]

被災者等への的確な情報伝達活動

市は、情報収集・伝達手段として、特に、防災行政無線等の無線系の整備やＩＰ通信網、ケーブルテレビ網等の活用を図り、災害情報を被災者等へ速やかに伝達する手段の確保に努める。さらには、有線系や携帯電話も含め、要配慮者にも配慮した多様な手段の整備に努める。

また、市及び放送事業者等は、地震に関する情報及び被災者に対する生活情報を常に伝達できるよう、その体制及び施設、設備の整備を図る。

防災行政無線の整備

防災行政無線のデジタル化とともに、市内全域を網羅する防災行政無線の整備に努める。更に、多種・多様な伝達手段等と連携した、防災情報システムを構築する。

デジタル防災行政無線システムの活用

「デジタル防災行政無線システム」を活用して、災害時における避難指示等の緊急情報の迅速な伝達を行う。

対策案	見直しの方向性等	短期 (1年～2年)	中期 (3年～5年)
・屋外拡声子局からの放送だけではなく、複数の媒体を活用した情報の伝達	・避難情報の伝達について、デジタル技術を活用した効果的な手法について引き続き検討する。 ・旅行者等を適切に避難誘導するための、情報発信手段・ツールについて検討する。	防災行政無線の更新方法の調査・機器更新に伴い調査検討	
・フェーズごとに整理された情報発信	・刻々と変化する災害情報について外部機関とも連携を取りながら収集・整理に努め、避難者に対しフェーズごとに的確な情報発信ができるよう体制の強化を図る。	情報発信の明確化及び体制強化	

4-4. 検証項目:④関係機関との連携・受援体制

(1) 受援体制の機能不全

課題④-①

受援体制の機能不全

地域防災計画・避難所開設・運営マニュアル等の対応箇所（抜粋）

[地域防災計画]

相互応援体制の整備

市は、あらかじめ協定を締結するなど広域的相互応援体制の整備充実を図る。また、国や他の地方公共団体等からの応援職員等を迅速・的確に受け入れて情報共有や各種調整等を行うため、受援計画（マニュアル）に沿って受援体制の整備に努めるものとする。

対策案	見直しの方向性等	短期 (1年～2年)	中期 (3年～5年)
・ 日頃から研修や訓練等を通じた、受援体制の確認	・ 受援体制の流れや支援機関との連絡方法等について双方が定期的に確認し、防災訓練等を通じて習熟を図る。	平時からの協定先等との連絡確認  受援訓練を継続的に実施	
・ 県内で共同利用が進んでいる「被災者生活再建支援システム」を導入することで、作業効率の向上、職員の負担軽減を図る	・ 被災者生活再建支援システムを導入する等、応援職員を円滑に受け入れるための支援体制を整備する。	システム導入予定  支援訓練を継続的に実施 	

参考資料

- ・令和6年能登半島地震に関する市民緊急アンケート調査
- ・人流データの分析

令和 6 年能登半島地震に関する 緊急アンケート調査

【調査対象】 全市民

【調査方法】 調査票全戸配布32,855部（令和 6 年 3 月）
Web回答可

【回 答 数】 4,513 $\left(\begin{array}{l} \text{アンケート用紙 } 3,362 \\ \text{Web回答 } 1,151 \end{array} \right)$

【回 収 率】 13.74%

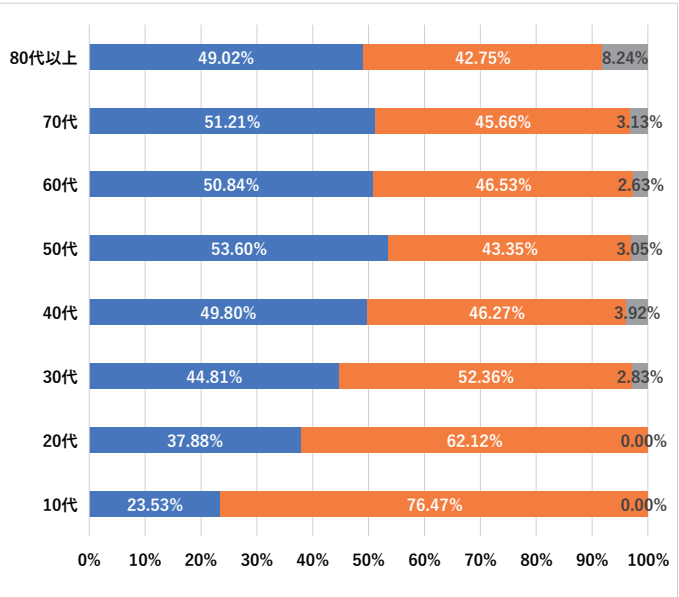
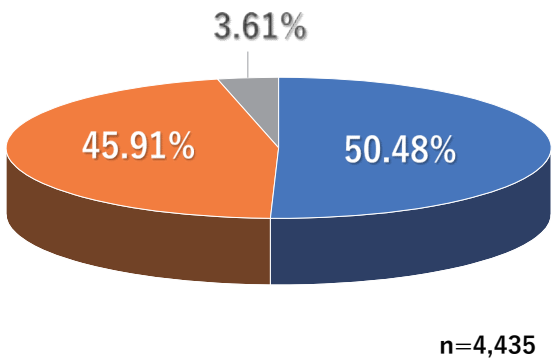
問 1 あなたの年代、お住いの地区を教えてください。

年代	回答数	割合
10代	17	0.38%
20代	66	1.46%
30代	214	4.74%
40代	512	11.35%
50代	725	16.06%
60代	964	21.36%
70代	1,440	31.91%
80代以上	531	11.77%
空白	44	0.97%
計	4,513	100%

地区	回答数	地区	回答数	地区	回答数
放生津	288	三ヶ	235	浅井	102
新湊	394	戸破	414	櫛田	78
庄西	46	橋下条	104	水戸田	56
作道	228	金山	56	二口	127
片口	183	大江	93	大門	191
堀岡	128	黒河	116	大島	554
海老江	132	池多	21	下	130
七美	63	太閤山	193	空白	109
本江	81	中太閤山	102	計	4,513
塚原	152	南太閤山	137		

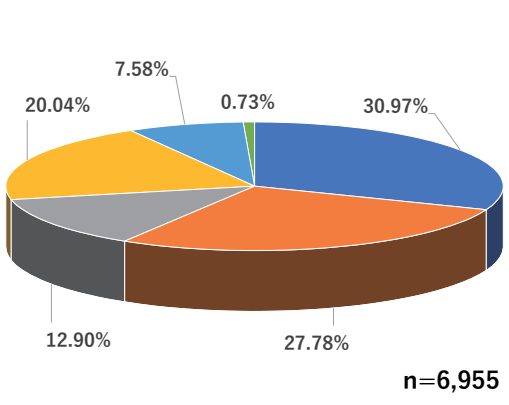
問2 射水市に津波や洪水など各災害に対応したハザードマップがあることを知っていますか。(単一選択)

- ハザードマップがあることもその内容も概ね知っている
- ハザードマップがあることは知っているが内容は知らない
- ハザードマップがあることを知らない



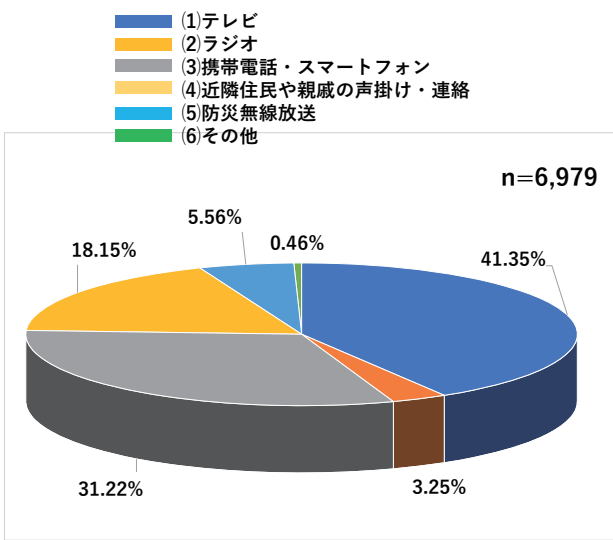
問3 あなたは日ごろから減災・防災のため、なにをしていますか。(複数選択)

- 食料、防災グッズなどの準備
- 避難場所・ルートの確認
- 住宅の耐震化や家具の固定
- 防災訓練や講演会に参加
- 何もしていない
- その他



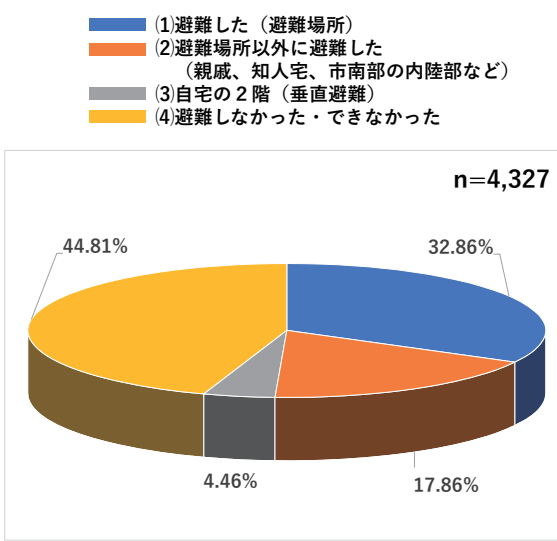
年代	回答数	割合	年代	回答数	割合
10代			60代		
(1) 食料、防災グッズなどの準備	8	25.0%	(1) 食料、防災グッズなどの準備	487	34.0%
(2) 避難場所・ルートの確認	12	37.5%	(2) 避難場所・ルートの確認	387	27.0%
(3) 住宅の耐震化や家具の固定	3	9.4%	(3) 住宅の耐震化や家具の固定	171	11.9%
(4) 防災訓練や講演会に参加	4	12.5%	(4) 防災訓練や講演会に参加	274	19.1%
(5) 何もしていない	5	15.6%	(5) 何もしていない	101	7.0%
(6) その他	0	0.0%	(6) その他	13	0.9%
20代			70代		
(1) 食料、防災グッズなどの準備	29	28.2%	(1) 食料、防災グッズなどの準備	647	29.5%
(2) 避難場所・ルートの確認	35	34.0%	(2) 避難場所・ルートの確認	615	28.4%
(3) 住宅の耐震化や家具の固定	5	4.9%	(3) 住宅の耐震化や家具の固定	348	16.0%
(4) 防災訓練や講演会に参加	17	16.5%	(4) 防災訓練や講演会に参加	453	21.0%
(5) 何もしていない	15	14.6%	(5) 何もしていない	88	4.1%
(6) その他	2	1.9%	(6) その他	13	0.6%
30代			80代以上		
(1) 食料、防災グッズなどの準備	107	29.5%	(1) 食料、防災グッズなどの準備	212	27.3%
(2) 避難場所・ルートの確認	103	28.4%	(2) 避難場所・ルートの確認	251	32.3%
(3) 住宅の耐震化や家具の固定	28	7.7%	(3) 住宅の耐震化や家具の固定	142	18.3%
(4) 防災訓練や講演会に参加	81	22.3%	(4) 防災訓練や講演会に参加	144	18.6%
(5) 何もしていない	43	11.8%	(5) 何もしていない	23	3.0%
(6) その他	1	0.3%	(6) その他	4	0.5%
40代			(空白)		
(1) 食料、防災グッズなどの準備	278	31.9%	(1) 食料、防災グッズなどの準備	16	35.6%
(2) 避難場所・ルートの確認	226	25.9%	(2) 避難場所・ルートの確認	15	33.3%
(3) 住宅の耐震化や家具の固定	70	8.0%	(3) 住宅の耐震化や家具の固定	7	15.6%
(4) 防災訓練や講演会に参加	182	20.9%	(4) 防災訓練や講演会に参加	4	8.9%
(5) 何もしていない	112	12.8%	(5) 何もしていない	3	6.7%
(6) その他	4	0.5%	(6) その他	0	0.0%
50代			計		
(1) 食料、防災グッズなどの準備	370	31.7%	計(1) 食料、防災グッズなどの準備	2,154	31.0%
(2) 避難場所・ルートの確認	288	24.6%	計(2) 避難場所・ルートの確認	1,932	27.8%
(3) 住宅の耐震化や家具の固定	125	10.7%	計(3) 住宅の耐震化や家具の固定	897	12.9%
(4) 防災訓練や講演会に参加	235	20.1%	計(4) 防災訓練や講演会に参加	1,304	20.0%
(5) 何もしていない	137	11.7%	計(5) 何もしていない	527	7.6%
(6) その他	14	1.2%	計(6) その他	51	0.7%

問 4 今回の地震で津波警報が発表されました。
あなたは、どのような手段で情報を得ましたか。（複数選択）



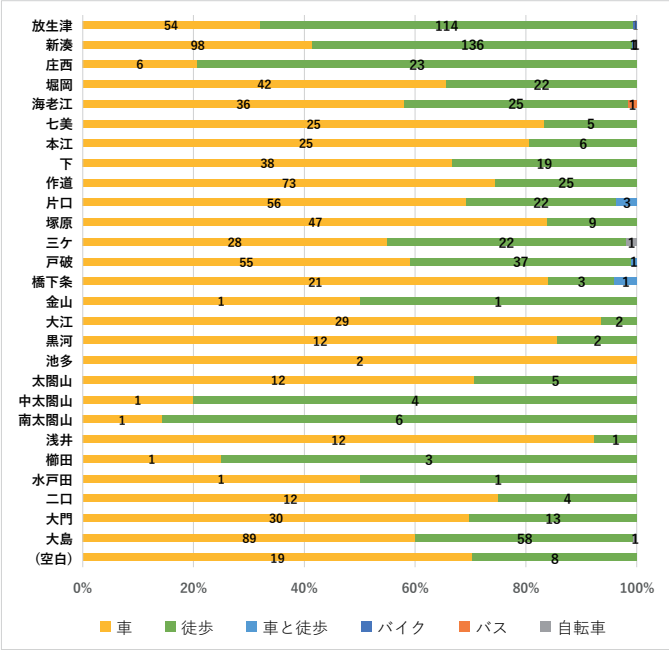
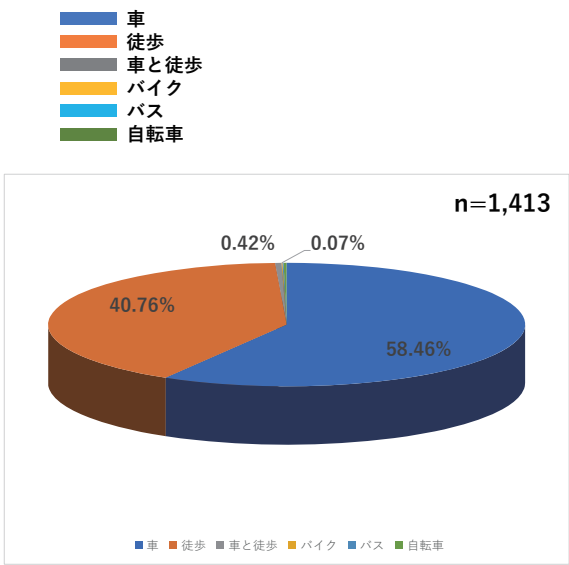
年代	回答数	割合	年代	回答数	割合
10代			60代		
(1)テレビ	9	37.5%	(1)テレビ	620	40.9%
(2)ラジオ	2	8.3%	(2)ラジオ	40	2.6%
(3)携帯電話・スマートフォン	6	25.0%	(3)携帯電話・スマートフォン	514	33.9%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	6	25.0%	(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	248	16.4%
(5)防災無線放送	1	4.2%	(5)防災無線放送	85	5.6%
(6)その他	0	0.0%	(6)その他	8	0.5%
20代			70代		
(1)テレビ	37	38.9%	(1)テレビ	1,028	43.5%
(2)ラジオ	2	2.1%	(2)ラジオ	91	3.8%
(3)携帯電話・スマートフォン	21	22.1%	(3)携帯電話・スマートフォン	846	35.8%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	31	32.6%	(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	242	10.2%
(5)防災無線放送	4	4.2%	(5)防災無線放送	152	6.4%
(6)その他	0	0.0%	(6)その他	6	0.3%
30代			80代以上		
(1)テレビ	100	35.1%	(1)テレビ	408	47.6%
(2)ラジオ	1	0.4%	(2)ラジオ	51	5.9%
(3)携帯電話・スマートフォン	68	23.9%	(3)携帯電話・スマートフォン	237	27.6%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	104	36.5%	(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	107	12.5%
(5)防災無線放送	8	2.8%	(5)防災無線放送	52	6.1%
(6)その他	4	1.4%	(6)その他	3	0.3%
40代			(空白)		
(1)テレビ	263	35.5%	(1)テレビ	30	46.2%
(2)ラジオ	18	2.4%	(2)ラジオ	3	4.6%
(3)携帯電話・スマートフォン	176	23.8%	(3)携帯電話・スマートフォン	26	40.0%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	246	33.2%	(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	4	6.2%
(5)防災無線放送	33	4.5%	(5)防災無線放送	2	3.1%
(6)その他	5	0.7%	(6)その他	0	0.0%
50代			計		
(1)テレビ	391	37.9%	計(1)テレビ	2,886	41.4%
(2)ラジオ	19	1.8%	計(2)ラジオ	227	3.3%
(3)携帯電話・スマートフォン	285	27.6%	計(3)携帯電話・スマートフォン	2,179	31.2%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	279	27.1%	計(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	1,267	18.2%
(5)防災無線放送	51	4.9%	計(5)防災無線放送	388	5.6%
(6)その他	6	0.6%	計(6)その他	32	0.5%

問 5－1 今回の地震で、あなたはどこへ避難しましたか。（単一選択）

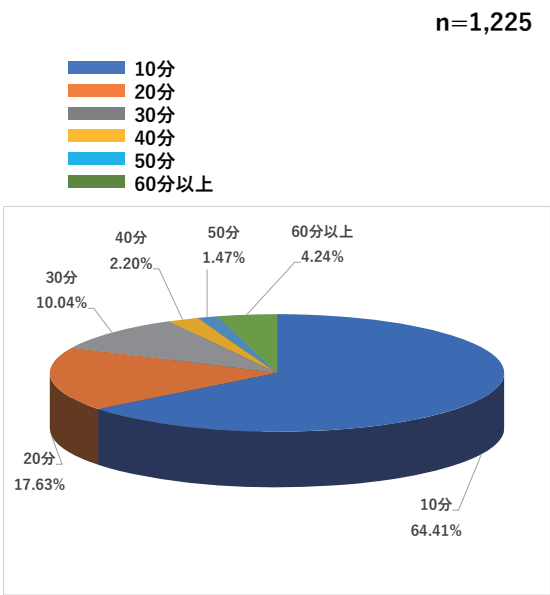


	(1)避難場所へ避難した	(2)避難場所以外に避難した（親戚、知人宅、市南部の内陸部など）	(3)自宅の2階（垂直避難）	(4)避難しなかった・できなかった	総計
放生津	62.79%	20.54%	3.10%	13.57%	100.00%
新湊	64.15%	21.29%	5.39%	9.16%	100.00%
庄西	67.50%	27.50%	5.00%	0.00%	100.00%
福岡	53.28%	36.07%	3.28%	7.38%	100.00%
海老江	49.61%	40.94%	1.57%	7.87%	100.00%
七美	46.67%	38.33%	8.33%	6.67%	100.00%
本江	37.18%	51.28%	1.28%	10.26%	100.00%
下	43.44%	33.61%	5.74%	17.21%	100.00%
作道	44.70%	19.35%	6.91%	29.03%	100.00%
片口	42.46%	46.93%	3.35%	7.26%	100.00%
塚原	38.51%	22.97%	6.08%	32.43%	100.00%
三ヶ	22.03%	10.57%	4.85%	62.56%	100.00%
戸破	23.76%	13.86%	4.95%	57.43%	100.00%
橋下条	25.00%	7.00%	3.00%	65.00%	100.00%
金山	9.26%	1.85%	5.56%	83.33%	100.00%
大江	35.16%	31.87%	4.40%	28.57%	100.00%
黒河	11.61%	11.61%	3.57%	73.21%	100.00%
池多	10.00%	10.00%	0.00%	80.00%	100.00%
太閤山	11.23%	5.88%	3.21%	79.68%	100.00%
中太閤山	6.38%	4.26%	3.19%	86.17%	100.00%
南太閤山	8.27%	3.01%	1.50%	87.22%	100.00%
浅井	14.85%	7.92%	3.96%	73.27%	100.00%
柳田	3.95%	3.95%	3.95%	88.16%	100.00%
水戸田	3.85%	7.69%	3.85%	84.62%	100.00%
二口	12.90%	5.65%	4.03%	77.42%	100.00%
大門	23.66%	10.22%	5.91%	60.22%	100.00%
大島	29.10%	11.05%	4.42%	55.43%	100.00%
(空白)	27.72%	17.82%	8.91%	45.54%	100.00%
総計	32.86%	17.86%	4.46%	44.81%	100.00%

問５－２ 今回の地震で、あなたはどのような手段で避難しましたか（避難場所）。

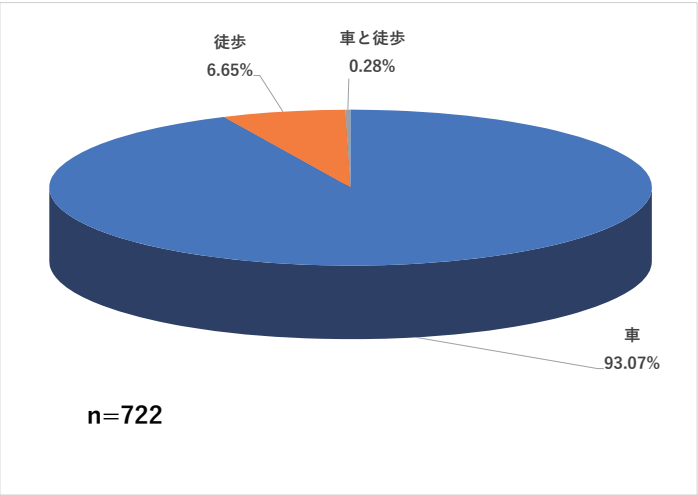


問５－３ 到着までに要した時間（避難場所）。（単一選択）



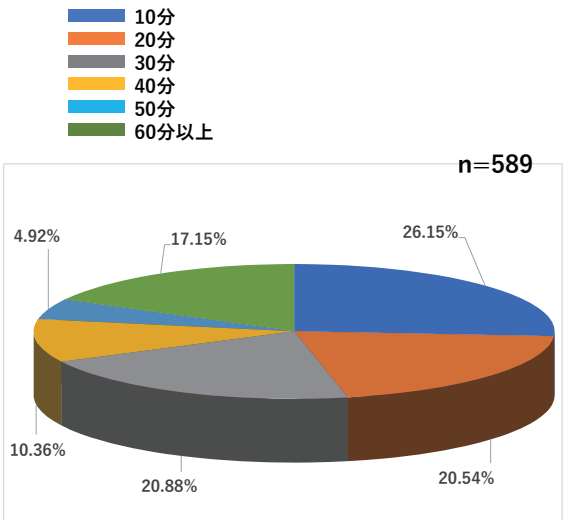
地区	10分	20分	30分	40分	50分	60分以上	総計
放生津	72.85%	13.91%	6.62%	0.66%	1.99%	3.97%	100.00%
新湊	71.50%	13.53%	8.70%	2.42%	1.45%	2.42%	100.00%
庄西	90.32%	0.00%	0.00%	3.23%	3.23%	0.00%	100.00%
堀岡	53.85%	9.62%	17.31%	3.85%	1.92%	13.46%	100.00%
海老江	50.91%	7.27%	16.36%	3.64%	1.82%	20.00%	100.00%
七美	52.00%	20.00%	20.00%	0.00%	4.00%	4.00%	100.00%
本江	44.83%	20.69%	20.69%	3.45%	6.90%	3.45%	100.00%
下	58.18%	25.45%	14.55%	0.00%	0.00%	1.82%	100.00%
作道	50.00%	19.77%	13.95%	3.49%	2.33%	10.47%	100.00%
片口	44.78%	25.37%	19.40%	4.48%	2.99%	2.99%	100.00%
塚原	48.00%	30.00%	14.00%	8.00%	0.00%	0.00%	100.00%
三ヶ	52.38%	23.81%	11.90%	2.38%	2.38%	7.14%	100.00%
戸破	76.19%	21.43%	1.19%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
橋下条	85.00%	5.00%	5.00%	0.00%	0.00%	5.00%	100.00%
金山	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
大江	48.39%	32.26%	12.90%	0.00%	0.00%	6.45%	100.00%
黒河	77.78%	22.22%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
池多	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
太閤山	81.25%	12.50%	0.00%	0.00%	6.25%	0.00%	100.00%
中太閤山	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
南太閤山	75.00%	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
浅井	63.64%	18.18%	18.18%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
柳田	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
水戸田	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
二口	60.00%	40.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
大門	75.68%	21.62%	2.70%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
大島	70.94%	20.51%	6.84%	0.85%	0.00%	0.85%	100.00%
総計	64.51%	17.79%	9.89%	2.08%	1.50%	4.24%	100.00%

問５－４ 今回の地震で、あなたはどのような手段で避難しましたか（避難場所以外）。



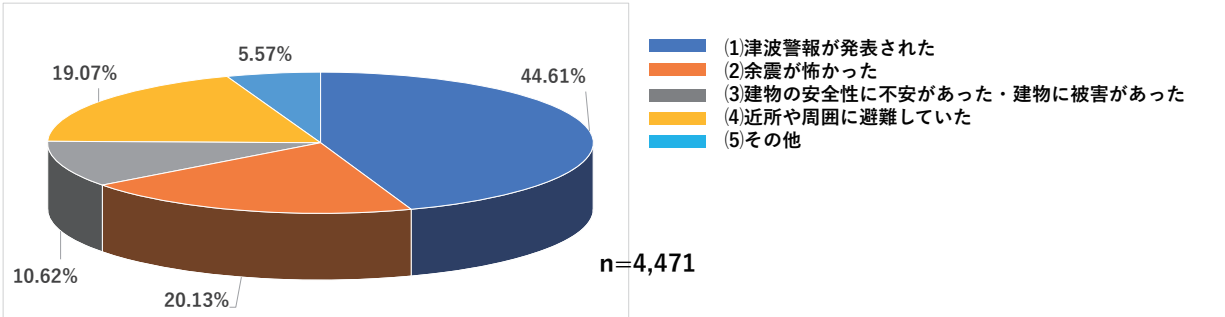
地区	車	車と徒歩	徒歩	総計
放生津	89.80%	0.00%	10.20%	100.00%
新湊	92.21%	0.00%	7.79%	100.00%
庄西	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
作道	94.87%	0.00%	5.13%	100.00%
片口	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
堀岡	90.00%	2.50%	7.50%	100.00%
海老江	98.15%	0.00%	1.85%	100.00%
七美	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
本江	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
塚原	93.33%	0.00%	6.67%	100.00%
三ヶ	66.67%	0.00%	33.33%	100.00%
戸破	88.46%	0.00%	11.54%	100.00%
橋下条	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
金山	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
大江	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
黒河	70.00%	0.00%	30.00%	100.00%
太閤山	90.91%	0.00%	9.09%	100.00%
中太閤山	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
南太閤山	50.00%	0.00%	50.00%	100.00%
池多	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
浅井	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
柳田	0.00%	0.00%	100.00%	100.00%
水戸田	50.00%	0.00%	50.00%	100.00%
二口	66.67%	0.00%	33.33%	100.00%
大門	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
大島	92.86%	0.00%	7.14%	100.00%
下	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
(空白)	82.35%	5.88%	11.76%	100.00%
総計	93.07%	0.28%	6.65%	100.00%

問５－５ 到着までに要した時間（避難場所以外）。



地区	10分	20分	30分	40分	50分	60分以上	総計
放生津	1.02%	0.85%	1.19%	1.02%	1.02%	2.55%	7.64%
新湊	2.55%	1.36%	2.89%	1.02%	1.02%	1.87%	10.70%
庄西	0.85%	0.17%	0.68%	0.00%	0.00%	0.17%	1.87%
作道	1.53%	0.85%	0.85%	0.85%	0.68%	0.68%	5.43%
片口	0.85%	1.70%	3.06%	2.04%	0.00%	2.04%	9.68%
堀岡	1.19%	0.51%	1.19%	0.34%	0.34%	2.04%	5.60%
海老江	1.02%	1.19%	1.70%	0.68%	0.68%	2.72%	7.98%
七美	0.00%	0.51%	1.19%	0.68%	0.00%	0.85%	3.23%
本江	0.34%	1.53%	1.19%	1.02%	0.00%	1.02%	5.09%
塚原	1.02%	0.68%	1.02%	0.51%	0.68%	0.85%	4.75%
三ヶ	0.85%	0.68%	0.51%	0.00%	0.00%	0.17%	2.21%
戸破	3.40%	1.70%	1.36%	0.00%	0.00%	0.00%	6.45%
橋下条	0.51%	0.00%	0.00%	0.17%	0.00%	0.17%	0.85%
金山	0.17%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.17%
大江	1.87%	0.85%	0.51%	0.17%	0.00%	0.68%	4.07%
黒河	0.85%	0.68%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.53%
池多	0.17%	0.17%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.34%
太閤山	1.02%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.34%	1.36%
中太閤山	0.68%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.68%
南太閤山	0.34%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.34%
浅井	0.34%	0.51%	0.00%	0.00%	0.00%	0.17%	1.02%
柳田	0.17%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.17%
水戸田	0.34%	0.17%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.51%
二口	0.34%	0.17%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.68%
大門	0.68%	1.36%	0.51%	0.17%	0.00%	0.00%	2.72%
大島	2.72%	2.38%	1.19%	0.51%	0.00%	0.17%	6.96%
下	0.68%	2.38%	1.53%	1.02%	0.17%	0.51%	6.28%
(空白)	0.68%	0.17%	0.17%	0.17%	0.34%	0.17%	1.70%
総計	26.15%	20.54%	20.88%	10.36%	4.92%	17.15%	100.00%

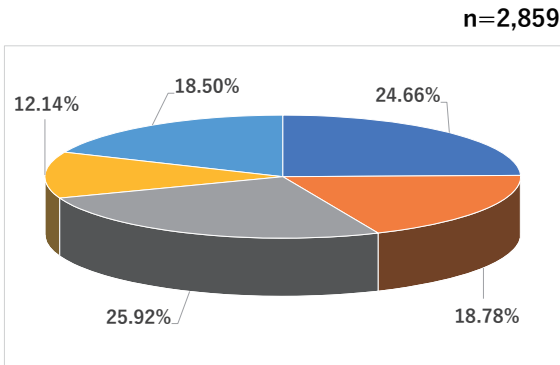
問6 今回の地震で避難した理由はどれですか。(複数選択)
問5で「避難した」または「避難場所以外に避難した」を選んだ方のみ回答



	放生津	新湊	庄西	作道	片口	堀岡	海老江	七美	本江	塚原	三ヶ	戸破	橋下条	金山	大江	黒河	池多	太閤山	中太閤山	南太閤山	浅井	柳田	水戸田	二口	大門	大島	下	(空白)	総計
(1)津波警報が発表された	210	304	38	130	156	109	113	52	69	86	64	128	22	1	57	21	2	15	5	2	19	3	1	21	52	182	92	40	1,994
(2)余震が怖かった	86	116	16	56	41	27	35	12	16	34	40	72	15	13	25	13	0	20	10	11	13	9	10	16	32	109	31	22	900
(3)建物の安全性に不安があった・建物に被害があった	51	56	10	33	19	9	10	8	8	16	19	33	10	8	23	5	1	16	6	11	9	5	4	9	24	47	15	10	475
(4)近所や周囲に避難していた	90	124	15	46	82	43	38	17	24	29	35	58	8	0	20	9	1	6	2	5	11	2	0	13	23	90	41	21	853
(5)その他	8	23	5	8	11	6	9	4	1	4	18	26	9	2	4	7	3	15	9	8	5	3	2	10	12	22	5	10	249
合計	445	623	84	273	309	194	205	93	118	169	176	317	64	24	129	55	7	72	32	37	57	22	17	69	143	450	184	103	4,471

問7 避難する際に困ったことはありますか。(複数選択)

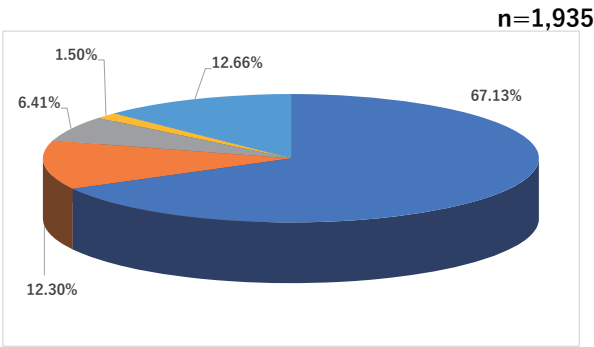
- (1)車で渋滞した
- (2)近くに避難場所や高い場所がなかった
- (3)食料、防災グッズなどの用意をしていなかった
- (4)避難場所に入らなかった
- (5)その他



年代	回答数	割合	年代	回答数	割合
10代			60代		
(1)車で渋滞した	1	6.67%	(1)車で渋滞した	164	26.58%
(2)近くに避難場所や高い場所がなかった	2	13.33%	(2)近くに避難場所や高い場所がなかった	101	16.37%
(3)食料、防災グッズなどの用意をしていなかった	6	40.00%	(3)食料、防災グッズなどの用意をしていなかった	162	26.26%
(4)避難場所に入らなかった	2	13.33%	(4)避難場所に入らなかった	79	12.80%
(5)その他	4	26.67%	(5)その他	111	17.99%
20代			70代		
(1)車で渋滞した	9	18.75%	(1)車で渋滞した	218	25.77%
(2)近くに避難場所や高い場所がなかった	11	22.92%	(2)近くに避難場所や高い場所がなかった	183	21.63%
(3)食料、防災グッズなどの用意をしていなかった	11	22.92%	(3)食料、防災グッズなどの用意をしていなかった	250	29.55%
(4)避難場所に入らなかった	9	18.75%	(4)避難場所に入らなかった	67	7.92%
(5)その他	8	16.67%	(5)その他	128	15.13%
30代			80代以上		
(1)車で渋滞した	25	20.16%	(1)車で渋滞した	94	27.89%
(2)近くに避難場所や高い場所がなかった	18	14.52%	(2)近くに避難場所や高い場所がなかった	74	21.96%
(3)食料、防災グッズなどの用意をしていなかった	33	26.61%	(3)食料、防災グッズなどの用意をしていなかった	107	31.75%
(4)避難場所に入らなかった	24	19.35%	(4)避難場所に入らなかった	13	3.86%
(5)その他	24	19.35%	(5)その他	49	14.54%
40代			(空白)		
(1)車で渋滞した	71	19.94%	(1)車で渋滞した	10	33.33%
(2)近くに避難場所や高い場所がなかった	63	17.70%	(2)近くに避難場所や高い場所がなかった	5	16.67%
(3)食料、防災グッズなどの用意をしていなかった	68	19.10%	(3)食料、防災グッズなどの用意をしていなかった	4	13.33%
(4)避難場所に入らなかった	78	21.91%	(4)避難場所に入らなかった	5	16.67%
(5)その他	76	21.35%	(5)その他	6	20.00%
50代			計		
(1)車で渋滞した	113	23.25%	計(1)車で渋滞した	705	30.26%
(2)近くに避難場所や高い場所がなかった	80	16.46%	計(2)近くに避難場所や高い場所がなかった	537	23.05%
(3)食料、防災グッズなどの用意をしていなかった	100	20.58%	計(3)食料、防災グッズなどの用意をしていなかった	741	31.80%
(4)避難場所に入らなかった	70	14.40%	計(4)避難場所に入らなかった	347	14.89%
(5)その他	123	25.31%	計(5)その他	129	5.25%

問 8 避難しなかった・できなかった理由はどれですか。(単一選択)
問 5で「避難しなかった・できなかった」を選んだ方のみ回答

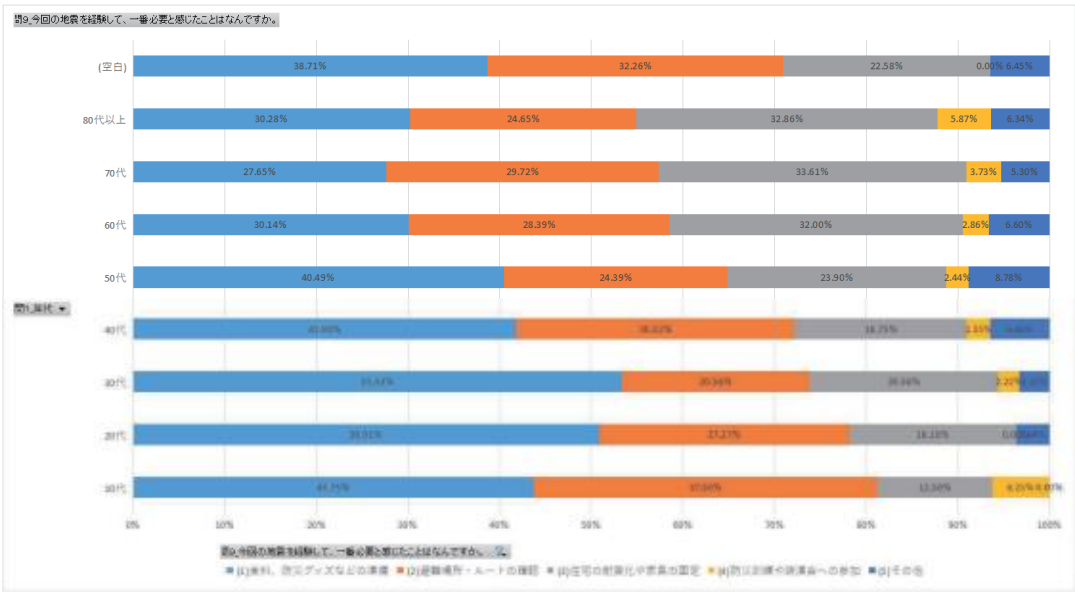
- (1) 自宅が安全だと思った・避難の必要がなかった
- (2) どのように行動すればよいかわからなかった
- (3) 病気や身体が不自由等で、避難するのが困難だった (家族含む)
- (4) 津波警報が発表されていることを知らなかった
- (5) その他



	(1)自宅が安全だ と思った・避難 の必要がなかっ た	(2)どのように行動すれ ばよいかわからなかった	(3)病気や身体が不自由 等で、避難するのが困難 だった (家族も含む)	(4)津波警報が発表され ていることを知らなかつ た	(5)その他	総計
放生津	17	6	11		13	47
新湊	18	5	10		2	43
庄西					1	1
作道	31	10	10	4	12	67
片口	6	3	2	1	7	19
堀岡	9	2			3	14
海老江	2	2	3	1	2	10
七美		2	2	1	4	9
本江	1	4			7	12
堀原	27	7	6		10	50
三ヶ	88	17	8	3	19	135
戸破	153	24	15	3	30	225
橋下桑	44	11	3		5	63
金山	38	4	2		3	47
大江	18	3		1	5	27
黒河	66	11	2		2	81
池多	14				3	17
太閤山	112	17	4	1	10	144
中太閤山	66	6	4	1	3	80
南太閤山	83	10	2		7	102
浅井	53	11	1	2	4	71
藤田	52	6	3	1	4	66
水戸田	34	6	1		2	43
二口	70	8	9		7	94
大門	61	19	7		22	109
大島	189	39	14	5	44	291
下	12	2	3	2	2	21
(空白)	35	3	2	1	6	47
総計	1299	238	124	29	245	1935

問 9 今回の地震を経験して、一番必要と感じたことはなんですか。
(単一選択)

n=3,766



問10 今回の地震を経験されて何か不安なことやその他ご意見等がありましたら、ご自由に記載ください。（原文まま掲載）

○1人暮らしの高齢者の対応

○子供は、学校で避難訓練やっているのので、身の安全を適格に行動していた。親の方があたふたしていたので避難訓練は、大切だと思いました。

○第一イン新湊など高層の建物なども、避難場所として行政と契約してほしい。

○ペットを飼っているのので、避難場所に行くことをためらってしまう。

○防災無線が聞こえない。防災訓練の際も全く聞こえません。アルビス総合体育センタに設置して欲しいです。現在ある無線と聞こえる範囲を確認していただき増設の検討願いたい。

○避難路の渋滞していた。地区の避難誘導體制。地区の近くに高台の確保。避難所への各備蓄品の保管「食品・飲料水・防寒用品・簡易トイレ・転倒」

津波警報発令時の人の動き

いみずケーブルネットワーク 制作番組
「検証 その時、あなたは…～令和6年 能登半島地震～」
にて活用されたデータ

令和6年能登半島地震 市内人流

■期 間： 2024年 1月 1日(月)

■時間帯： 15：00 ～ 24：00

■備 考： ・GPS位置情報ビッグデータをベースにした推計値
・20歳未満のGPSデータは法令により集計対象外
・外国人のGPSデータは集計対象外

作成日：令和 6年 1月22日

提供：  **いみず** ケーブルネットワーク
IMIZU CABLE NETWORK

1

使用するデータは、KDDIの携帯電話(スマートフォン)の位置情報(GPS)を用いたビッグデータを分析したものを使用して、「どこに」「どんな人が」「どれだけいるか」を推計値として把握したもの。

位置情報(GPS):推定居住地(直近1か月間の夜間に長くいた場所)や知りたい時間帯の場所等
契約者情報:性別、年代(20歳未満除く)
また、外国人旅行者は除く

※データは、KDDI(au)のほか、他社の契約数も考慮された推計値となっている。

2



避難先毎の来訪者

国道8号線北側避難先

13施設

国道8号線南側避難先

19施設

※震災当時の全ての避難先のデータではなく、いみずケーブルネットワーク側の番組制作上で抽出されたデータ

3

避難先別 避難者(地域別)内訳

避難先：旧中伏木小学校		
庄西地域	83人	66.9%
市外	41人	33.1%
計	124人	100.0%

(海拔1.4m)

避難先：庄西コミュニティセンター		
庄西地域	416人	91.0%
市外	41人	9.0%
計	457人	100.0%

(海拔2.3m)



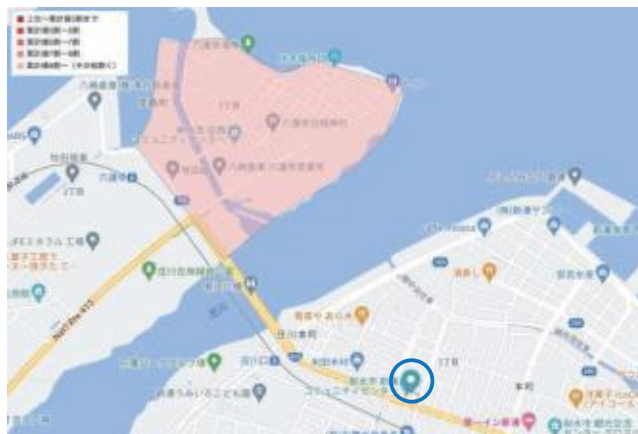
4

避難先別 避難者(地域別)内訳

避難先：新湊コミュニティセンター

(海拔2.1m)

新湊地域	30人	100.0%
計	30人	100.0%



避難先：新湊高校

(海拔1.1m)

新湊地域	500人	78.2%
市外	108人	16.9%
大島地域	31人	4.9%
計	639人	100.0%



5

避難先別 避難者(地域別)内訳

避難先：クロスベイ新湊

(海拔1.8m)

新湊地域	415人	49.9%
市外	199人	23.9%
放生津地域	169人	20.3%
庄西地域	49人	5.9%
計	832人	100.0%



避難先：新湊中央文化会館(高周波文化ホール)

(海拔1.9m)

新湊地域	148人	100.0%
計	148人	100.0%



6

避難先別 避難者(地域別)内訳

避難先：第一イン新湊（別館）

(海拔1.5m)

市外	317人	46.4%
新湊地域	307人	44.9%
放生津地域	59人	8.6%
計	683人	100.0%



避難先：新湊小学校

(海拔1.5m)

新湊地域	382人	67.6%
市外	134人	23.7%
庄西地域	49人	8.7%
計	565人	100.0%



7

避難先別 避難者(地域別)内訳

避難先：放生津小学校

(海拔1.4m)

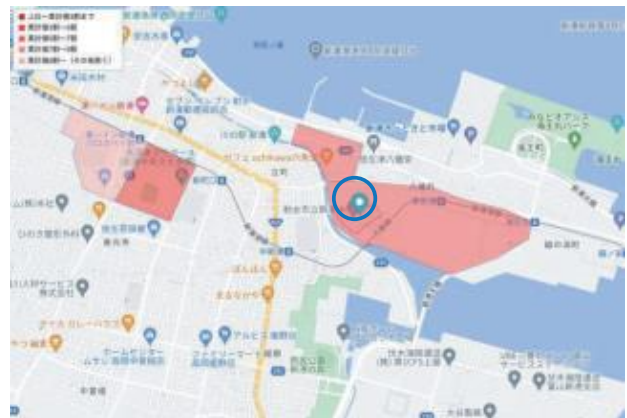
放生津地域	446人	83.5%
市外	88人	16.5%
計	534人	100.0%



避難先：新湊中学校

(海拔1.0m)

新湊地域	311人	36.7%
放生津地域	291人	34.3%
市外	246人	29.0%
計	848人	100.0%



8

避難先別 避難者(地域別)内訳

避難先：片口小学校

(海拔1.2m)

片口地域	412人	76.9%
市外	124人	23.1%
計	536人	100.0%



避難先：七美コミュニティセンター

(海拔1.4m)

七美地域	169人	47.9%
海老江地域	142人	40.2%
畑岡地域	42人	11.9%
計	353人	100.0%



9

避難先別 避難者(地域別)内訳

避難先：射水市民病院

(海拔2.5m)

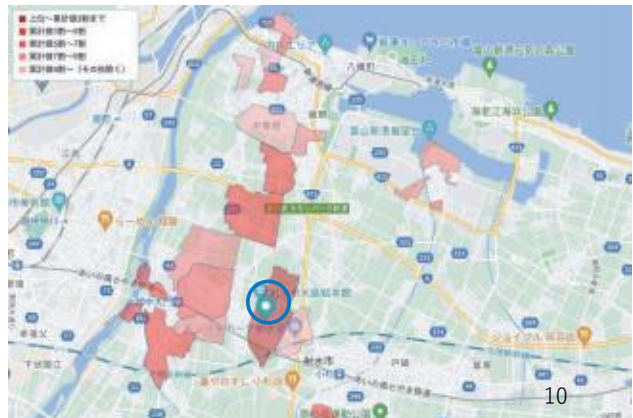
市外	329人	37.6%
作道地域	198人	22.7%
塚原地域	149人	17.0%
新湊地域	138人	15.8%
下地区地域	60人	6.9%
計	874人	100.0%



避難先：射水市役所

(海拔4.8m)

大島地域	493人	36.4%
市外	212人	15.7%
塚原地域	209人	15.4%
新湊地域	198人	14.6%
片口地域	104人	7.7%
ふたぐち地域	73人	5.4%
横下条地域	64人	4.7%
計	1,353人	100.0%



10

避難先別 避難者(地域別)内訳

避難先：小杉高校

(海拔5.3m)

大島地域	65人	63.1%
三ヶ地域	38人	36.9%
計	103人	100.0%



避難先：小杉小学校

(海拔3.9m)

三ヶ地域	51人	54.3%
市外	43人	45.7%
計	94人	100.0%



11

避難先別 避難者(地域別)内訳

避難先：小杉中学校

(海拔5.9m)

戸破地域	182人	32.9%
市外	116人	21.0%
中太閤山まちづくり	88人	15.9%
太閤山地域	62人	11.2%
橋下条地域	54人	9.8%
三ヶ地域	28人	5.1%
作道地域	23人	4.2%
計	553人	100.0%



避難先：小杉文化ホール ラポール

(海拔5.2m)

戸破地域	80人	61.1%
黒河地域	51人	38.9%
計	131人	100.0%



12

避難先別 避難者(地域別)内訳

避難先：小杉体育館		
片口地域	77人	47.5%
黒河地域	51人	31.5%
戸破地域	34人	
計	162人	79.0%

(海拔5.2m)

避難先：小杉総合体育センター		
不明	0人	
計	0人	

(海拔4.1m)

(アルビス小杉総合体育センター)

※サンプル数が少ないため、データ抽出不能

(ビルト・プレイズ歌の森体育館)



13

避難先別 避難者(地域別)内訳

避難先：市民プラザ		
三ヶ地域	103人	62.8%
戸破地域	61人	37.2%
計	164人	100.0%

(海拔4.4m)

避難先：歌の森小学校		
戸破地域	105人	60.0%
作道地域	70人	40.0%
計	175人	100.0%

(海拔6.6m)

(救急薬品市民交流プラザ)



14

避難先別 避難者(地域別)内訳

避難先：富山県立大学 (海拔16.4m)		
戸畷地域	516人	48.0%
作道地域	253人	23.5%
三ヶ地域	136人	12.6%
計	1,076人	100.0%

避難先：中太閤山小学校 (海拔20.8m)		
ふたぐち地域	76人	65.0%
市外	41人	35.0%
計	117人	100.0%



15

避難先別 避難者(地域別)内訳

避難先：小杉南中学校 (海拔16.4m)		
中太閤山まづくり地域	105人	54.1%
市外	89人	45.9%
計	194人	100.0%

避難先：太閤山ランド (海拔29.0m)		
市外	256人	34.8%
堀岡地域	119人	16.2%
下地区地域	87人	11.8%
戸畷地域	73人	9.9%
池多地域	65人	8.8%
片口地域	48人	6.5%
南太閤山地域	40人	5.4%
作道地域	27人	3.7%
黒河地域	20人	2.7%
計	735人	100.0%



16

避難先別 避難者(地域別)内訳

避難先：コストコ射水倉庫店

市外	597人	32.7%
作道地域	307人	16.8%
大島地域	196人	10.7%
海老江地域	142人	7.8%
大江地域	117人	6.4%
浅井報徳地域	103人	5.6%
堀岡地域	99人	5.4%
太閤山地域	79人	4.3%
櫛田地域	69人	3.8%
片口地域	48人	2.6%
塚原地域	47人	2.6%
黒河地域	20人	1.1%
計	1,824人	100.0%

(海拔34.6m)



17

避難先別 避難者(地域別)内訳

避難先：太閤山バスコ

作道地域	262人	16.3%
市外	210人	13.1%
戸破地域	188人	11.7%
中太閤山まちづ	183人	11.4%
浅井報徳地域	175人	10.9%
南太閤山地域	92人	5.7%
新湊地域	89人	5.6%
大江地域	75人	4.7%
七美地域	69人	4.3%
橋下条地域	63人	3.9%
下地区地域	56人	3.5%
塚原地域	49人	3.1%
大島地域	47人	2.9%
三ヶ地域	45人	2.8%
計	1,603人	100.0%

(海拔19.5m)



18

避難先別 避難者(地域別)内訳

避難先：大門中学校		
大島地域	47人	40.2%
市外	70人	59.8%
計	117人	100.0%

(海拔8.0m)

避難先：大門小学校		
ふたぐち地域	73人	100.0%
計	73人	100.0%

(海拔8.5m)



19

避難先別 避難者(地域別)内訳

避難先：大門総合体育館		
ふたぐち地域	73人	100.0%
計	73人	100.0%

(海拔7.9m)

避難先：大門総合会館		
大島地域	89人	50.6%
放生津地域	87人	49.4%
計	176人	100.0%

(海拔7.7m)



20



道路状況

新湊市街
↓
南方向

日時:1月1日(月)
移動手段:車

15:00~16:00

津波警報発令前

21



道路状況

新湊市街
↓
南方向

日時:1月1日(月)
移動手段:車

16:00~17:00

16:12津波警報

津波警報発令中

新湊市街から南
へ向かう車で南
北の道路が混雑

22



道路状況

新湊市街
↓
南方向

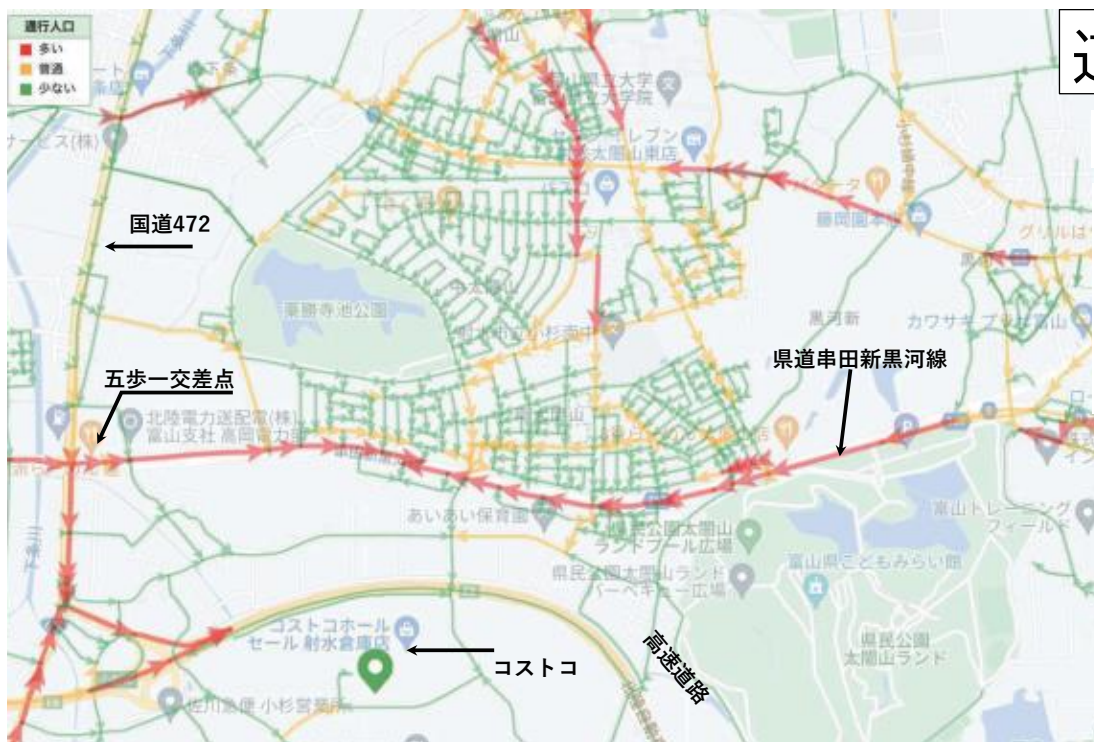
日時:1月1日(月)
移動手段:車

17:00~18:00
16:12津波警報

津波警報発令中

新湊市街から南
へ向かう車で南
北の道路が混雑

23



道路状況

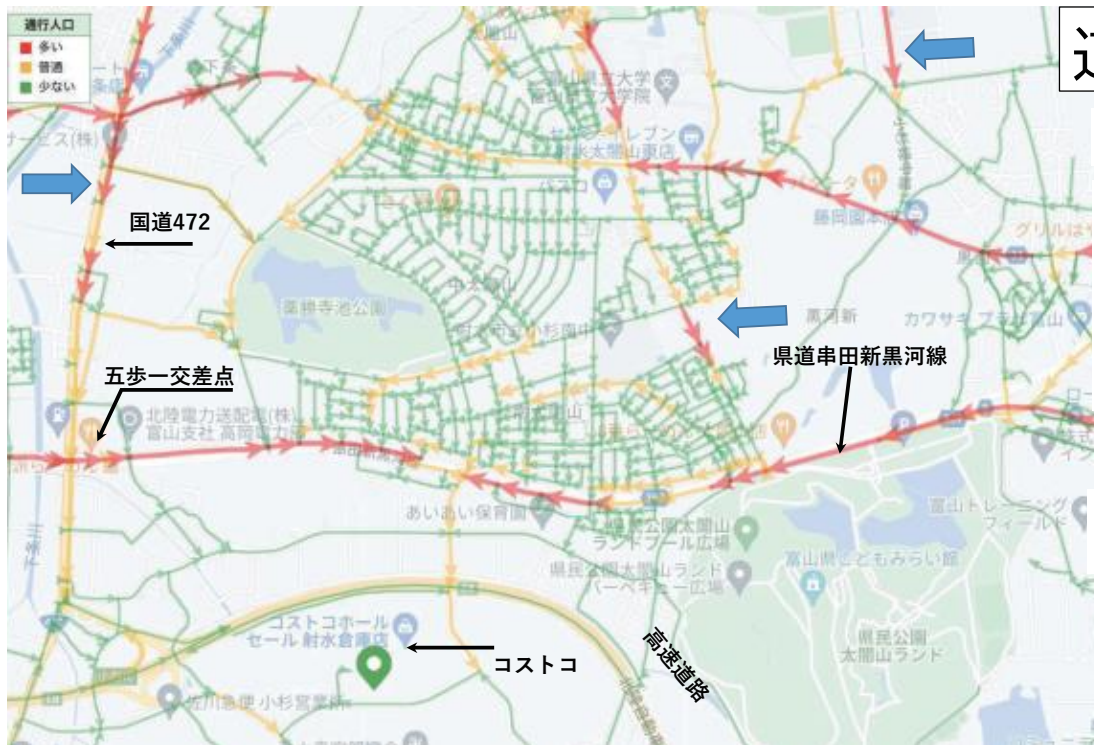
太閤山周辺

日時:1月1日(月)
移動手段:車

15:00~16:00

津波警報発令前

24



道路状況

太閤山周辺

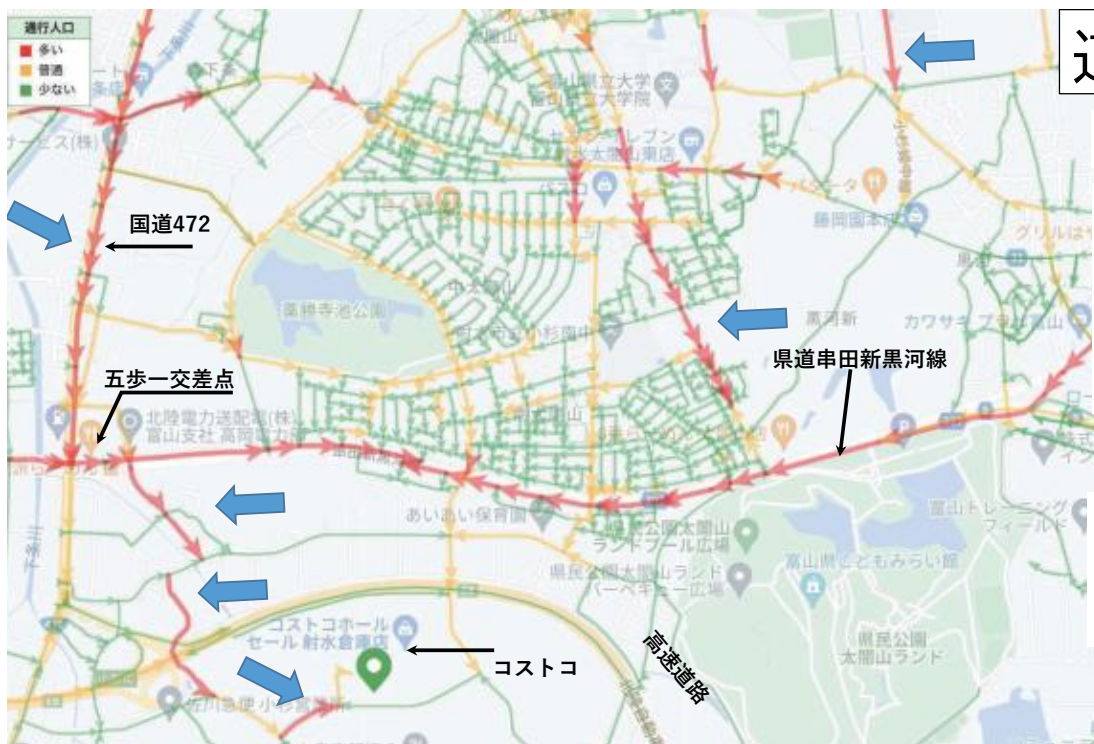
日時:1月1日(月)
移動手段:車

16:00~17:00
6:12津波警報

津波警報発令中

北側から南へ向
かう車が増加

25



道路状況

太閤山周辺

日時:1月1日(月)
移動手段:車

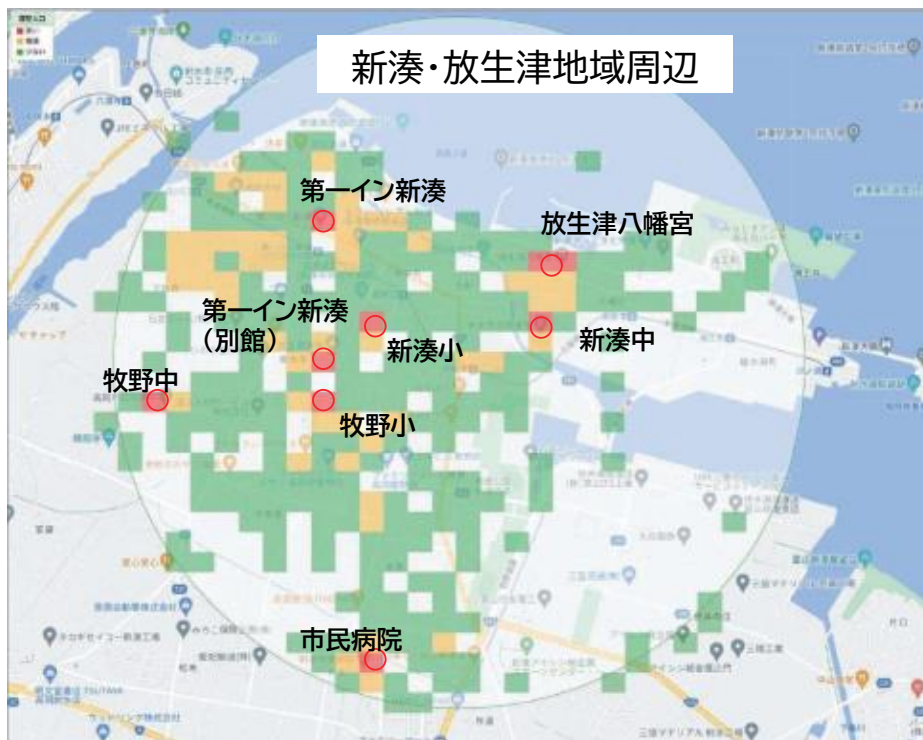
17:00~18:00
6:12津波警報

津波警報発令中

北側から南へ向
かう車が増加
コストコへ向か
う車が増加

26





滞在人口分析

日時:1月1日(月)
5:00~29:00(24時間)
滞在時間15分以上
半径2.0kmの範囲

時間	人数	増減
16時	18,388人	16時基準
17時	13,353人	△5,035
21時	15,168人	△3,220
25時	15,318人	△3,070

16時から17時で5,035人、
約27%の人がこの範囲外へ移動
(避難)した

- 15分以上の滞在者が多い箇所
- 普通の滞在箇所
- 15分以上の滞在者が少ない箇所

31



滞在人口分析

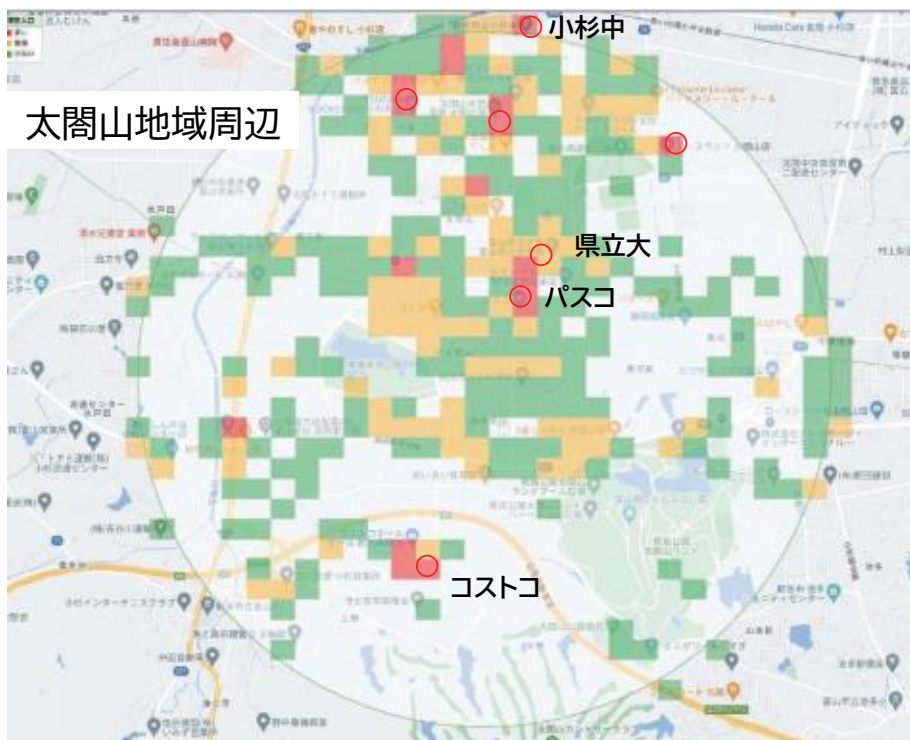
日時:1月1日(月)
5:00~29:00(24時間)
滞在時間15分以上

時間	人数	増減
16時	4,696人	16時基準
17時	2,024人	△2,672
21時	3,108人	△1,588
25時	3,220人	△1,476

16時から17時で2,672人、
約43%の人がこの範囲へ移動
(避難)した

- 15分以上の滞在者が多い箇所
- 普通の滞在箇所
- 15分以上の滞在者が少ない箇所

32



滞在人口分析

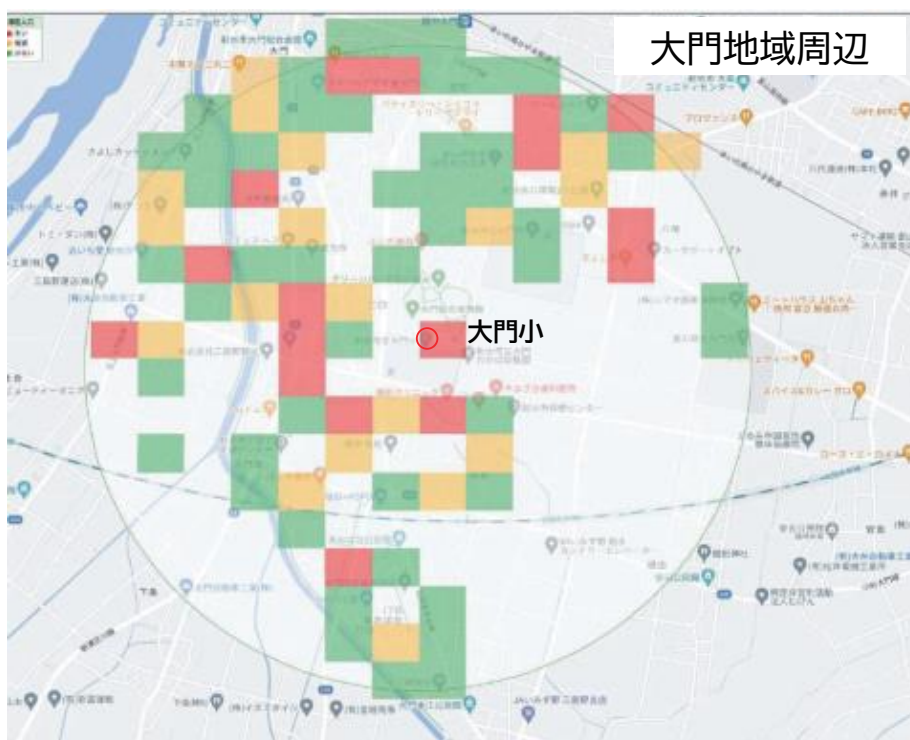
日時:1月1日(月)
5:00~29:00(24時間)
滞在時間15分以上
半径2.0kmの範囲

時間	人数	増減
16時	15,922人	16時基準
17時	20,254人	4,332
21時	16,365人	443
25時	15,602人	△320

16時から17時で、4,332人、
約27%の人がこの範囲外から
移動（避難）してきた

- 15分以上の滞在中が多い箇所
- 普通の滞在中箇所
- 15分以上の滞在中が少ない箇所

33



滞在人口分析

日時:1月1日(月)
5:00~29:00(24時間)
滞在時間15分以上
半径1.0kmの範囲

時間	人数	増減
16時	4,615人	16時基準
17時	4,400人	△215
21時	4,450人	△165
25時	4,319人	△296

16時から17時で215人、
約4.7%の滞在中人口が減少した

- 15分以上の滞在中が多い箇所
- 普通の滞在中箇所
- 15分以上の滞在中が少ない箇所

34